

香美市障害アンケート調査報告書

【抜粋資料】



令和5年10月

調査概要

■目的

本調査は、「香美市障害者計画（第4次）、香美市障害福祉計画（第7期）及び香美市障害児福祉計画（第3期）」の策定に向けた資料とさせていただくことを目的として実施しました。

項目	障害者調査	障害児童調査	一般市民調査
調査対象者	市内在住の身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保険福祉手帳などをお持ちの方（無作為抽出）	市内在住の18歳未満の身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保険福祉手帳などをお持ちの方 特別児童扶養手当1級・2級対象の児童の保護者の方（無作為抽出）	市内在住の18歳以上の方 1,000名（無作為抽出）
配布数	600件	51件	1,000件
有効回収数	216件	18件	310件
有効回収率	36.0%	35.3%	31.0%
調査期間	令和5年7月5日（水）～7月28日（金）		
調査方法	郵送配布・郵送回収による本人記入方式		

項目	事業所調査	団体・特定相談支援事業所 ヒアリング調査
調査対象者	市内事業者50社（無作為抽出）	市内活動団体3団体 特定相談支援事業所3事業所
有効回収数	29件	6件
有効回収率	58.0%	100.0%
調査期間	令和5年7月5日（水）～ 7月28日（金）	令和5年7月24日（月）～ 8月14日（月）
調査方法	郵送配布・郵送回収による記入方式	ヒアリングシートの配布と 郵送回収または対面による聞き取り

II 資料の見方

- ◇回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- ◇複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ◇図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ◇図表中の「n（number of case）」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- ◇本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。
- ◇集計対象者総数（n）が少ない（10件未満）クロス集計については、分析文の記載を省略しています。
- ◇問番号は、対象者ごとの調査票における番号を掲載しています。

III 調査結果

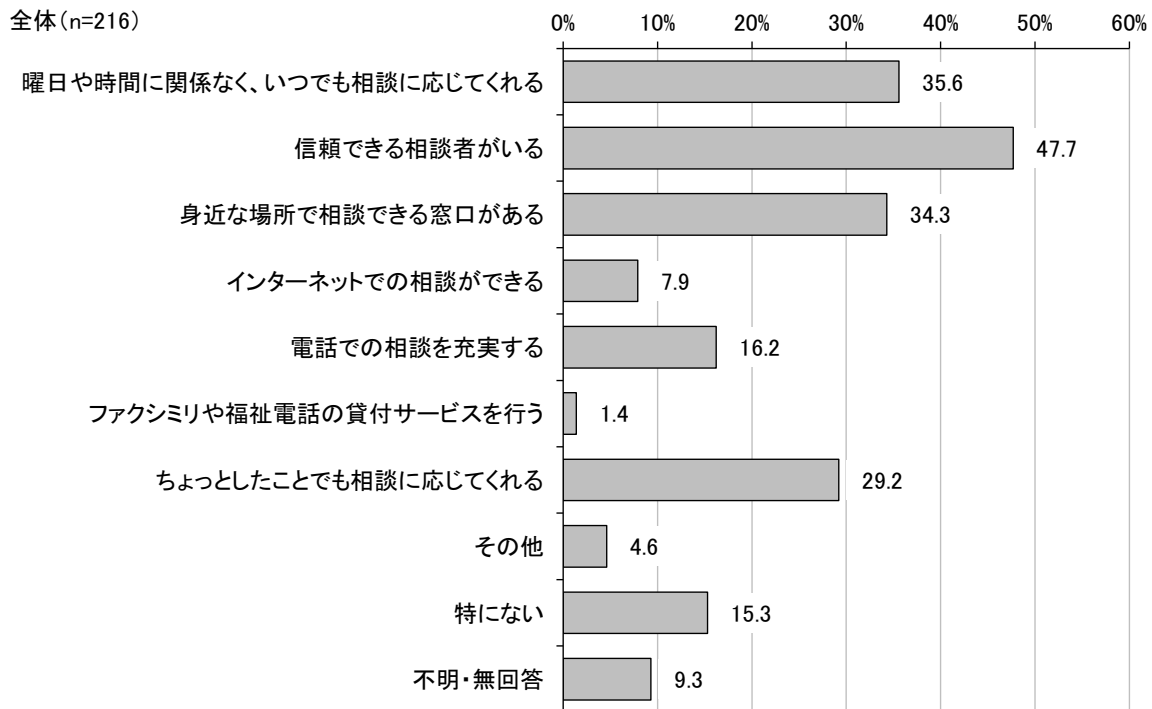
1. 相談について（障害のある方用）

問 16 相談機関に相談しやすい体制をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

相談しやすい体制をつくるためにどのようなことが必要だと思うかについてみると、「信頼できる相談者がいる」が47.7%と最も高く、次いで「曜日や時間に関係なく、いつでも相談に応じてくれる」が35.6%、「身近な場所で相談できる窓口がある」が34.3%となっています。

年齢別にみると、[60～69 歳]では「曜日や時間に関係なく、いつでも相談に応じてくれる」「信頼できる相談者がいる」、その他の年齢では「信頼できる相談者がいる」が最も高くなっています。

障害種別にみると、[発達障害]では「曜日や時間に関係なく、いつでも相談に応じてくれる」「信頼できる相談者がいる」、その他の区分では「信頼できる相談者がいる」が最も高くなっています。



単位：%		曜日や時間に関係なく、いつでも相談に応じてくれる	信頼できる相談者がいる	身近な場所で相談できる窓口がある	インターネットでの相談ができる	電話での相談を充実する	貸付サービスや福祉電話のフアクシミリを行う	ちよつとしたことでも相談に応じてくれる	その他	特にない	不明・無回答
全体(n=216)		35.6	47.7	34.3	7.9	16.2	1.4	29.2	4.6	15.3	9.3
年齢別	18～19歳(n=1)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20～29歳(n=16)	25.0	68.8	43.8	18.8	12.5	6.3	18.8	12.5	12.5	6.3
	30～39歳(n=14)	35.7	57.1	28.6	0.0	14.3	0.0	28.6	0.0	21.4	7.1
	40～49歳(n=24)	50.0	62.5	41.7	16.7	12.5	0.0	37.5	4.2	0.0	8.3
	50～59歳(n=29)	31.0	44.8	34.5	24.1	24.1	0.0	27.6	6.9	10.3	3.4
	60～69歳(n=44)	45.5	45.5	25.0	4.5	13.6	2.3	31.8	2.3	18.2	11.4
	70～79歳(n=77)	32.5	41.6	36.4	1.3	18.2	0.0	31.2	3.9	20.8	7.8
	80歳以上(n=7)	28.6	28.6	42.9	0.0	14.3	14.3	0.0	0.0	14.3	28.6
障害種別	身体(n=151)	35.1	43.7	35.8	7.9	19.9	2.0	30.5	3.3	17.2	11.3
	療育(n=54)	40.7	63.0	29.6	3.7	3.7	1.9	25.9	3.7	7.4	9.3
	精神(n=37)	32.4	51.4	37.8	8.1	16.2	0.0	37.8	5.4	10.8	13.5
	難病(n=21)	28.6	52.4	38.1	9.5	19.0	4.8	47.6	9.5	4.8	14.3
	発達障害(n=22)	45.5	45.5	40.9	4.5	9.1	0.0	22.7	13.6	9.1	9.1
	高次脳機能障害(n=3)	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0

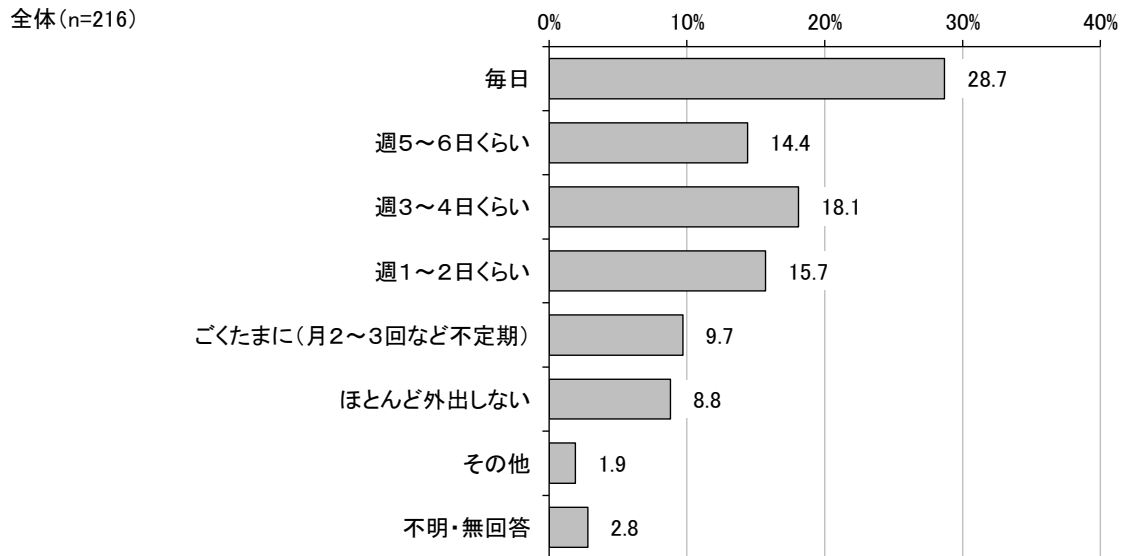
2. 外出・社会参加について（障害のある方用）

問 19 あなたはどのくらいの頻度で外出していますか。（あてはまるもの1つに○）

外出の頻度についてみると、「毎日」が 28.7%と最も高く、次いで「週3～4日くらい」が 18.1%、「週1～2日くらい」が 15.7%となっています。

年齢別にみると、[20～29 歳]では「毎日」「週5～6日くらい」、その他の年齢では「毎日」が最も高くなっています。

障害種別にみると、[難病]では「週3～4日くらい」、[発達障害]では「週1～2日くらい」、その他の区分では「毎日」が最も高くなっています。



単位：%		毎日	週5 ～ 6日 くらい	週3 ～ 4日 くらい	週1 ～ 2日 くらい	3 回 ～ 2 回 など たま に (月 2 ～ 3 回 な ど 不 定 期)	ほと んど 外 出 し な い	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=216)		28.7	14.4	18.1	15.7	9.7	8.8	1.9	2.8
年 齢 別	18～19歳 (n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	20～29歳 (n=16)	25.0	25.0	18.8	12.5	12.5	0.0	0.0	6.3
	30～39歳 (n=14)	50.0	28.6	0.0	14.3	0.0	7.1	0.0	0.0
	40～49歳 (n=24)	33.3	4.2	12.5	25.0	4.2	16.7	4.2	0.0
	50～59歳 (n=29)	34.5	10.3	10.3	17.2	6.9	17.2	3.4	0.0
	60～69歳 (n=44)	31.8	18.2	15.9	6.8	15.9	9.1	0.0	2.3
	70～79歳 (n=77)	24.7	11.7	23.4	18.2	9.1	6.5	2.6	3.9
	80歳以上 (n=7)	0.0	14.3	57.1	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0
障 害 種 別	身体 (n=151)	26.5	13.9	22.5	13.9	9.9	7.9	2.0	3.3
	療育 (n=54)	31.5	13.0	13.0	24.1	7.4	9.3	0.0	1.9
	精神 (n=37)	27.0	10.8	13.5	24.3	2.7	16.2	2.7	2.7
	難病 (n=21)	19.0	4.8	42.9	4.8	14.3	9.5	4.8	0.0
	発達障害 (n=22)	13.6	13.6	13.6	22.7	13.6	13.6	4.5	4.5
	高次脳機能障害 (n=3)	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0

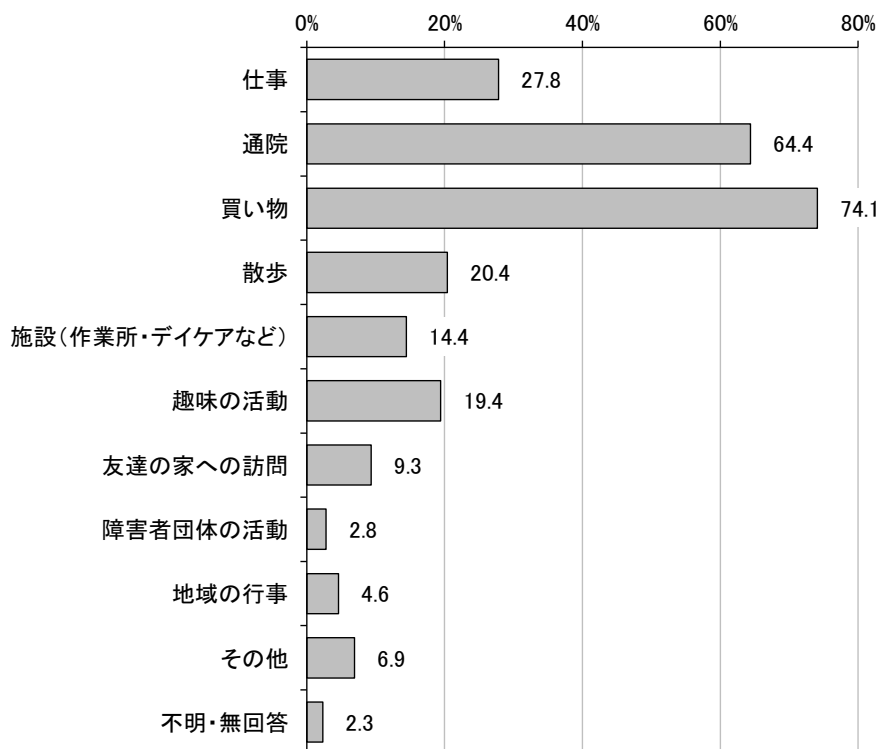
問 21 主に何のために外出しますか。(あてはまるものすべてに○)

何のために外出するかについてみると、「買い物」が 74.1%と最も高く、次いで「通院」が 64.4%、「仕事」が 27.8%となっています。

年齢別にみると、[40～49 歳]では「通院」「買い物」、[50～59 歳]では「通院」、その他の年齢では「買い物」が最も高くなっています。

障害種別にみると、[精神][難病]では「通院」「買い物」、その他の区分では「買い物」が最も高くなっています。

全体 (n=216)



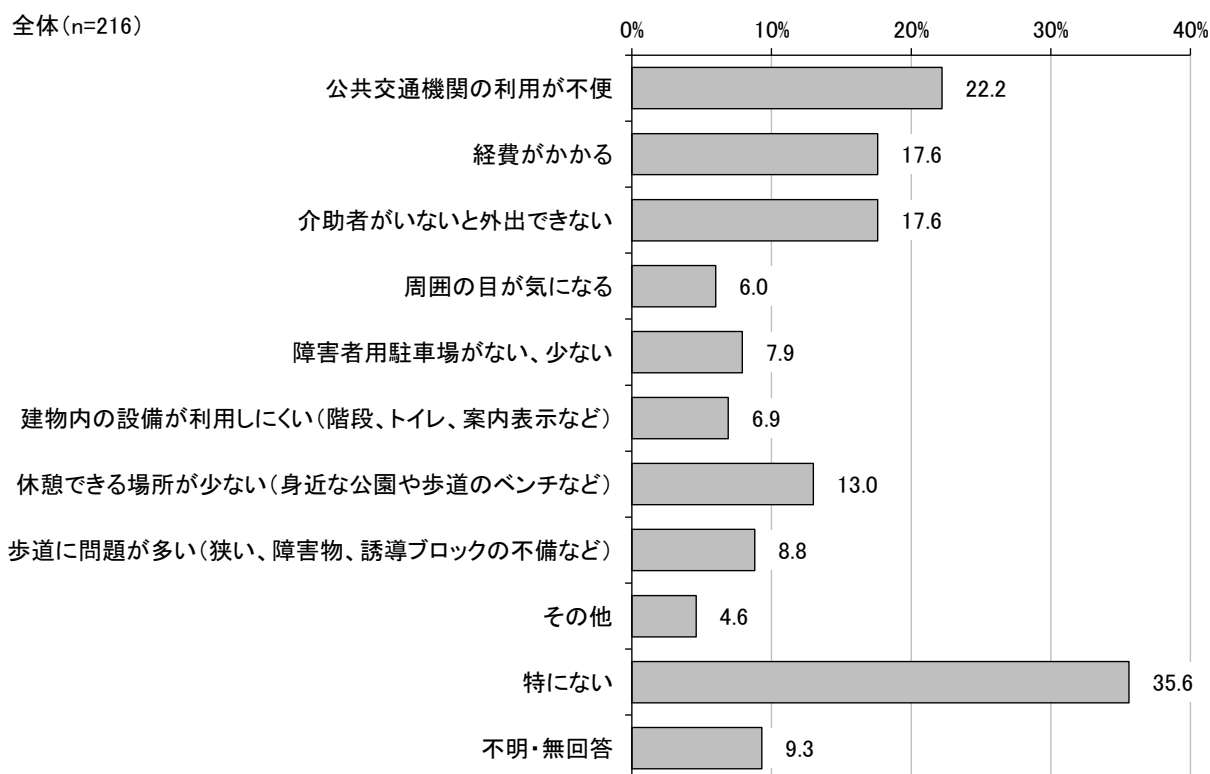
単位：%		仕事	通院	買い物	散歩	施設（作業所・デイケアなど）	趣味の活動	友達の家への訪問	障害者団体の活動	地域の行事	その他	不明・無回答
全体 (n=216)		27.8	64.4	74.1	20.4	14.4	19.4	9.3	2.8	4.6	6.9	2.3
年齢別	18～19歳 (n=1)	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20～29歳 (n=16)	43.8	37.5	87.5	25.0	18.8	12.5	0.0	18.8	6.3	6.3	0.0
	30～39歳 (n=14)	50.0	42.9	78.6	21.4	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	21.4	0.0
	40～49歳 (n=24)	45.8	66.7	66.7	20.8	25.0	25.0	16.7	8.3	8.3	12.5	0.0
	50～59歳 (n=29)	41.4	69.0	65.5	20.7	10.3	17.2	3.4	0.0	3.4	3.4	0.0
	60～69歳 (n=44)	36.4	65.9	72.7	13.6	11.4	13.6	11.4	2.3	0.0	4.5	6.8
	70～79歳 (n=77)	7.8	70.1	75.3	23.4	14.3	20.8	9.1	0.0	7.8	5.2	1.3
	80歳以上 (n=7)	0.0	100.0	85.7	14.3	14.3	42.9	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0
障害種別	身体 (n=151)	24.5	65.6	72.2	20.5	10.6	22.5	10.6	0.0	4.6	5.3	2.6
	療育 (n=54)	29.6	48.1	72.2	29.6	29.6	9.3	5.6	7.4	5.6	11.1	1.9
	精神 (n=37)	21.6	67.6	67.6	24.3	21.6	16.2	5.4	5.4	0.0	8.1	2.7
	難病 (n=21)	19.0	66.7	66.7	28.6	14.3	9.5	4.8	0.0	0.0	9.5	0.0
	発達障害 (n=22)	22.7	59.1	72.7	13.6	18.2	4.5	4.5	4.5	0.0	22.7	0.0
	高次脳機能障害 (n=3)	0.0	100.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 22 外出するときに困ったり不便に感じたりすることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

外出するときに困ったり不便に感じたりすることについてみると、「特にない」が 35.6%と最も高く、次いで「公共交通機関の利用が不便」が 22.2%、「経費がかかる」「介助者がいないと外出できない」が 17.6%となっています。

年齢別にみると、[20～29 歳]では「公共交通機関の利用が不便」、[30～39 歳]では「経費がかかる」、その他の年齢では「特にない」が最も高くなっています。

障害種別にみると、[身体]では「特にない」、[精神]では「公共交通機関の利用が不便」、[発達障害]では「公共交通機関の利用が不便」「介助者がいないと外出できない」、その他の区分では「介助者がいないと外出できない」が最も高くなっています。



単位：%		公共交通機関の利用が不便	経費がかかる	介助者がいないと外出できない	周囲の目が気になる	障害者用駐車場がない、少ない	建物内の設備が利用しにくい（階段、トイレ、案内表示など）	休憩できる場所が少ない（身近な公園や歩道のベンチなど）	障害物、誘導ブロックの狭い、不備など	歩道に問題が多い（狭い、	その他	特にない	不明・無回答
全体(n=216)		22.2	17.6	17.6	6.0	7.9	6.9	13.0	8.8	4.6	35.6	9.3	
年齢別	18～19歳(n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
	20～29歳(n=16)	37.5	12.5	31.3	18.8	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0	25.0	6.3	
	30～39歳(n=14)	35.7	42.9	21.4	7.1	7.1	14.3	21.4	14.3	7.1	21.4	7.1	
	40～49歳(n=24)	29.2	20.8	25.0	16.7	8.3	16.7	8.3	12.5	16.7	33.3	4.2	
	50～59歳(n=29)	31.0	17.2	17.2	6.9	10.3	10.3	20.7	17.2	0.0	41.4	0.0	
	60～69歳(n=44)	13.6	18.2	15.9	6.8	4.5	4.5	15.9	6.8	0.0	43.2	11.4	
	70～79歳(n=77)	18.2	11.7	14.3	0.0	11.7	5.2	11.7	6.5	5.2	32.5	14.3	
	80歳以上(n=7)	14.3	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	71.4	0.0	
障害種別	身体(n=151)	20.5	13.9	17.2	3.3	10.6	7.3	15.9	10.6	2.6	39.7	9.9	
	療育(n=54)	22.2	27.8	38.9	5.6	3.7	7.4	11.1	9.3	1.9	22.2	5.6	
	精神(n=37)	29.7	18.9	13.5	24.3	0.0	2.7	10.8	5.4	10.8	21.6	16.2	
	難病(n=21)	19.0	9.5	28.6	19.0	9.5	9.5	19.0	14.3	9.5	23.8	14.3	
	発達障害(n=22)	27.3	13.6	27.3	18.2	0.0	0.0	9.1	4.5	18.2	22.7	13.6	
	高次脳機能障害(n=3)	33.3	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

【自由回答より】

- ・山田駅へのエレベーター設置
- ・将来的に自力で移動が難しくなることをふまえた市内外での福祉タクシーなどの整備

といったご意見もみられました。



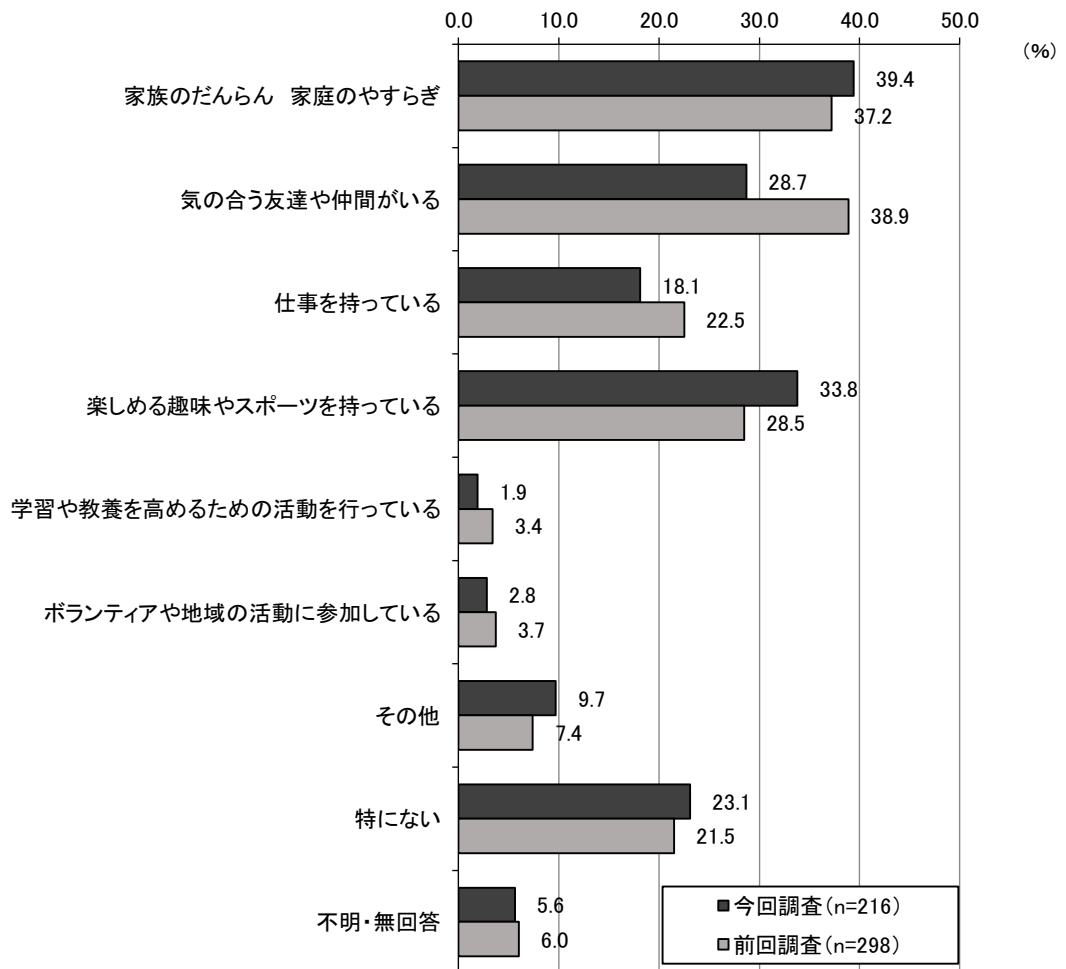
問 23 あなたの生きがいはどんなことですか。(あてはまるものすべてに○)

生きがいについてみると、「家族のだんらん 家庭のやすらぎ」が 39.4%と最も高く、次いで「楽しめる趣味やスポーツを持っている」が 33.8%、「気の合う友達や仲間がいる」が 28.7%となっています。

前回と比較すると、「家族のだんらん 家庭のやすらぎ」「楽しめる趣味やスポーツを持っている」「特にない」人の割合が増加し、「気の合う友達や仲間がいる」人の割合が大きく減少していることがわかります。

年齢別にみると、[20～29 歳]では「楽しめるスポーツや趣味を持っている」、[30～39 歳]では「特にない」、[40～49 歳]では「家族のだんらん 家庭のやすらぎ」「楽しめるスポーツや趣味を持っている」、その他の年齢では「家族のだんらん 家庭のやすらぎ」が最も高くなっています。

障害種別にみると、[身体][発達障害]では「家族のだんらん 家庭のやすらぎ」、[精神]では「家族のだんらん 家庭のやすらぎ」「楽しめるスポーツや趣味を持っている」、その他の区分では「楽しめるスポーツや趣味を持っている」が最も高くなっています。



単位：%		家族の だんらん 家庭の や す ら ぎ	気 の 合 う 友 達 や 仲 間 が い る	仕 事 を 持 っ て い る	楽 し め る 趣 味 や ス ポ ー ツ を 持 っ て い る	学 習 や 教 養 を 高 め る た め の 活 動 を 行 っ て い る	ボ ラ ン テ ィ ア や 地 域 の 活 動 に 参 加 し て い る	そ の 他	特 に な い	不 明 ・ 無 回 答
全体(n=216)		39.4	28.7	18.1	33.8	1.9	2.8	9.7	23.1	5.6
年 齢 別	18～19歳(n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	20～29歳(n=16)	31.3	31.3	25.0	50.0	6.3	6.3	6.3	6.3	12.5
	30～39歳(n=14)	28.6	21.4	21.4	35.7	0.0	0.0	0.0	42.9	7.1
	40～49歳(n=24)	41.7	25.0	25.0	41.7	0.0	4.2	16.7	25.0	0.0
	50～59歳(n=29)	41.4	31.0	27.6	34.5	10.3	3.4	3.4	20.7	0.0
	60～69歳(n=44)	31.8	22.7	20.5	27.3	0.0	0.0	4.5	29.5	11.4
	70～79歳(n=77)	48.1	31.2	10.4	26.0	0.0	3.9	13.0	23.4	3.9
	80歳以上(n=7)	42.9	42.9	0.0	71.4	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0
障 害 種 別	身体(n=151)	43.7	27.8	17.9	31.8	2.0	2.6	8.6	25.2	4.0
	療育(n=54)	20.4	31.5	18.5	40.7	0.0	3.7	11.1	14.8	9.3
	精神(n=37)	32.4	24.3	8.1	32.4	2.7	0.0	16.2	27.0	8.1
	難病(n=21)	33.3	23.8	4.8	38.1	0.0	0.0	9.5	33.3	4.8
	発達障害(n=22)	36.4	9.1	13.6	31.8	0.0	4.5	9.1	27.3	4.5
	高次脳機能障害(n=3)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

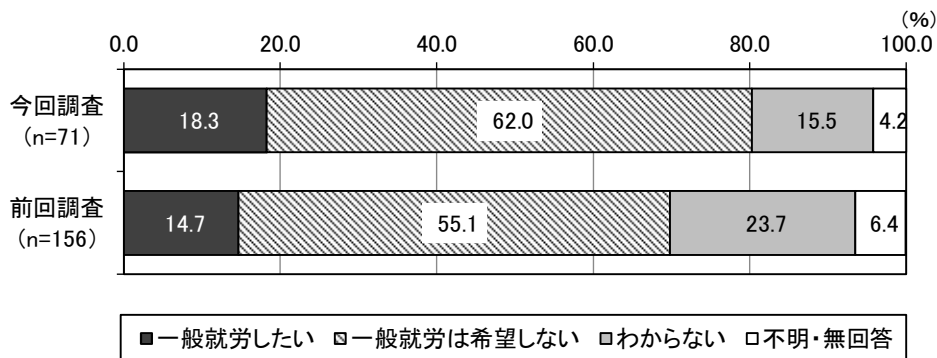
3. 一般就労について（障害のある方用）

問 31 今後の一般就労への意向についてお答えください。（あてはまるもの1つに○）

一般就労への意向についてみると、「一般就労は希望しない」が 62.0%と最も高く、次いで「一般就労したい」が 18.3%、「わからない」が 15.5%となっており、前回調査と比較すると「一般就労は希望しない」が増加していることがわかります。

年齢別にみると、[40～49 歳]では「一般就労は希望しない」「わからない」、その他の年齢では「一般就労は希望しない」が最も高くなっています。

障害種別にみると、いずれの区分においても「一般就労は希望しない」が最も高くなっています。



単位: %		一般就労したい	一般就労は希望しない	わからない	不明・無回答
全体 (n=71)		18.3	62.0	15.5	4.2
年齢別	20～29歳 (n=6)	33.3	16.7	50.0	0.0
	30～39歳 (n=7)	71.4	28.6	0.0	0.0
	40～49歳 (n=10)	20.0	30.0	30.0	20.0
	50～59歳 (n=12)	16.7	58.3	25.0	0.0
	60～69歳 (n=12)	8.3	91.7	0.0	0.0
	70～79歳 (n=21)	0.0	85.7	9.5	4.8
	80歳以上 (n=2)	0.0	100.0	0.0	0.0
障害種別	身体 (n=37)	10.8	81.1	5.4	2.7
	療育 (n=31)	25.8	48.4	19.4	6.5
	精神 (n=14)	14.3	50.0	35.7	0.0
	難病 (n=4)	0.0	100.0	0.0	0.0
	発達障害 (n=10)	10.0	60.0	30.0	0.0
	高次脳機能障害 (n=1)	0.0	100.0	0.0	0.0

※10～19 歳は n=0 のため記載なし

問 34 希望する仕事に就くうえで、どのような配慮が必要だと思いますか。

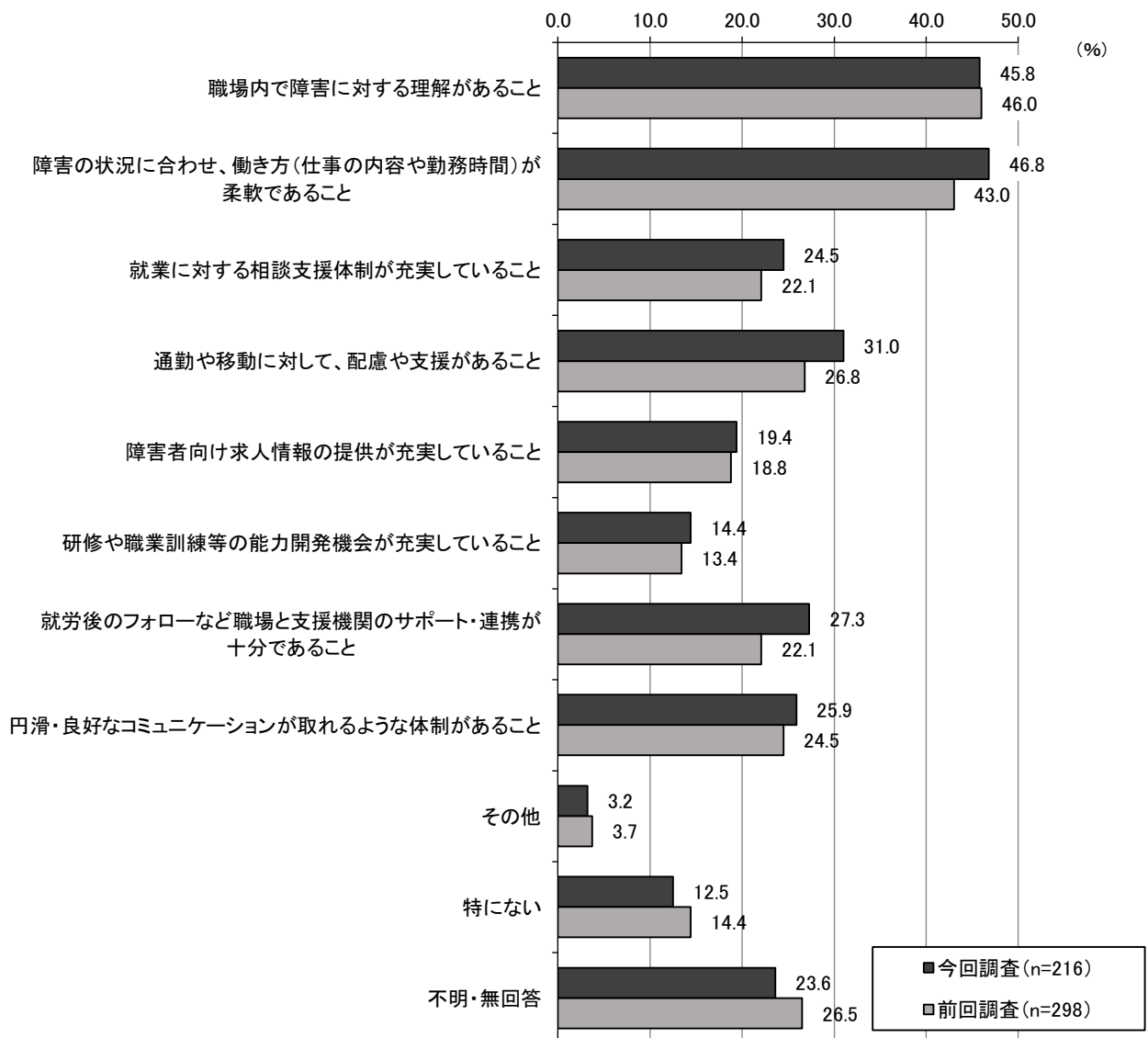
(あてはまるものすべてに○)

必要だと思う配慮についてみると、「障害の状況に合わせ、働き方(仕事の内容や勤務時間)が柔軟であること」が46.8%と最も高く、次いで「職場内で障害に対する理解があること」が45.8%、「通勤や移動に対して、配慮や支援があること」が31.0%となっています。

前回と比較すると、「障害の状況に合わせ、働き方(仕事の内容や勤務時間)が柔軟であること」と「職場内で障害に対する理解があること」の順位が入れ替わっていますが、概ね上位の項目は同じ傾向がみられます。

年齢別にみると、[20～29 歳][40～49 歳]では「職場内で障害に対する理解があること」「障害の状況に合わせ、働き方(仕事の内容や勤務時間)が柔軟であること」、[50～59 歳]では「職場内で障害に対する理解があること」、その他の年齢では「障害の状況に合わせ、働き方(仕事の内容や勤務時間)が柔軟であること」が最も高くなっています。

障害種別にみると、[身体][発達障害]では「職場内で障害に対する理解があること」、[難病]では「障害の状況に合わせ、働き方(仕事の内容や勤務時間)が柔軟であること」「通勤や移動に対して、配慮や支援があること」、その他の区分では「障害の状況に合わせ、働き方(仕事の内容や勤務時間)が柔軟であること」が最も高くなっています。

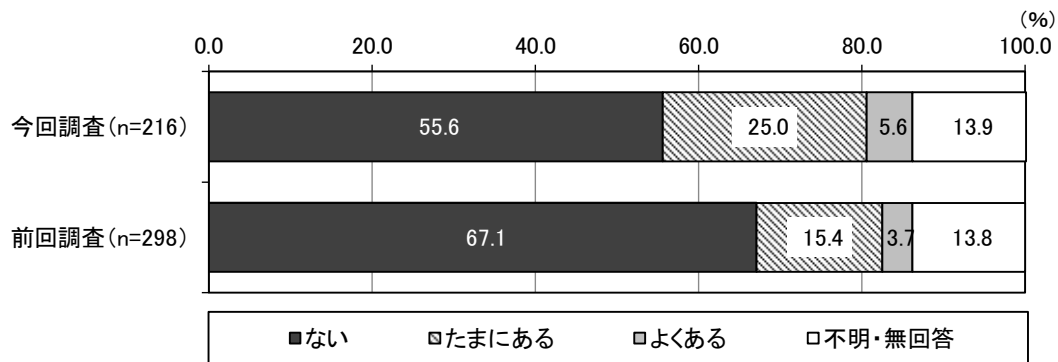


単位：%		職場内で障害に対する理解があること	障害者の状況に合わせ、働き方が柔軟であること	就業に対する相談支援体制が充実していること	通勤や移動に対して、配慮や支援があること	障害者向け求人情報の提供が充実していること	研修や職業訓練等の能力開発機会が充実していること	就労後のフォローなど職場と十分であること	円滑・良好なコミュニケーションが取れるような体制があること	その他	特になし	不明・無回答
全体(n=216)		45.8	46.8	24.5	31.0	19.4	14.4	27.3	25.9	3.2	12.5	23.6
年齢別	18～19歳(n=1)	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	20～29歳(n=16)	50.0	50.0	18.8	18.8	12.5	6.3	12.5	31.3	6.3	6.3	18.8
	30～39歳(n=14)	64.3	71.4	42.9	57.1	35.7	14.3	57.1	35.7	7.1	0.0	0.0
	40～49歳(n=24)	66.7	66.7	41.7	54.2	29.2	29.2	45.8	37.5	4.2	8.3	12.5
	50～59歳(n=29)	72.4	65.5	31.0	37.9	31.0	13.8	37.9	44.8	3.4	3.4	3.4
	60～69歳(n=44)	38.6	45.5	27.3	34.1	18.2	15.9	22.7	22.7	0.0	18.2	22.7
	70～79歳(n=77)	31.2	32.5	13.0	19.5	14.3	11.7	18.2	15.6	2.6	15.6	39.0
	80歳以上(n=7)	28.6	14.3	14.3	14.3	0.0	14.3	14.3	0.0	14.3	42.9	14.3
障害種別	身体(n=151)	42.4	40.4	23.8	29.1	20.5	16.6	23.8	24.5	2.6	15.9	26.5
	療育(n=54)	50.0	53.7	25.9	42.6	13.0	13.0	33.3	33.3	3.7	3.7	16.7
	精神(n=37)	59.5	62.2	32.4	35.1	27.0	8.1	40.5	27.0	2.7	2.7	18.9
	難病(n=21)	33.3	38.1	19.0	38.1	14.3	14.3	19.0	14.3	4.8	14.3	28.6
	発達障害(n=22)	36.4	31.8	22.7	27.3	9.1	4.5	18.2	22.7	4.5	13.6	27.3
	高次脳機能障害(n=3)	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3

4. 障害者差別について（障害のある方用）

問 35 あなたはこれまでに障害等を理由に差別されたり、いやな思いをしたことがありますか。
（あてはまるもの1つに○）

差別されたり、いやな思いをしたことがあるかについてみると、「ない」が 55.6%と最も高く、次いで「たまにある」が 25.0%、「よくある」が 5.6%となっており、前回調査と比較すると「ない」人の割合が減少していることがわかります。
年齢別にみると、[20～29 歳][30～39 歳]では「たまにある」、その他の年齢では「ない」が最も高くなっています。
障害種別にみると、[療育]では「たまにある」、[発達障害]では「ない」「たまにある」、その他の区分では「ない」が最も高くなっています。



単位: %		ない	たまにある	よくある	不明・無回答
全体 (n=216)		55.6	25.0	5.6	13.9
年齢別	18～19歳 (n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0
	20～29歳 (n=16)	43.8	50.0	0.0	6.3
	30～39歳 (n=14)	42.9	50.0	7.1	0.0
	40～49歳 (n=24)	37.5	29.2	16.7	16.7
	50～59歳 (n=29)	48.3	37.9	3.4	10.3
	60～69歳 (n=44)	59.1	15.9	6.8	18.2
	70～79歳 (n=77)	64.9	16.9	3.9	14.3
	80歳以上 (n=7)	85.7	0.0	0.0	14.3
障害種別	身体 (n=151)	62.9	17.9	6.0	13.2
	療育 (n=54)	29.6	44.4	5.6	20.4
	精神 (n=37)	43.2	29.7	8.1	18.9
	難病 (n=21)	61.9	19.0	9.5	9.5
	発達障害 (n=22)	36.4	36.4	9.1	18.2
	高次脳機能障害 (n=3)	33.3	66.7	0.0	0.0

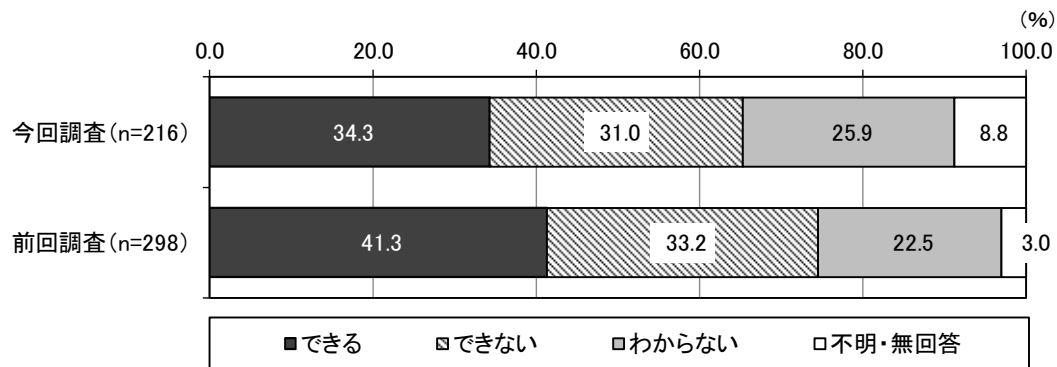
5. 防災について（障害のある方用）

問 38 あなたは 地震や豪雨などの災害時に一人で避難できますか。（あてはまるもの1つに○）

災害時に一人で避難できるかについてみると、「できる」が34.3%と最も高く、次いで「できない」が31.0%、「わからない」が25.9%となっており、前回調査と比較すると「できる」人の割合が減少していることがわかります。

年齢別にみると、[20～29 歳][30～39 歳]では「できない」、[40～49 歳]では「できる」「できない」、その他の年齢では「できる」が最も高くなっています。

障害種別にみると、[身体]では「できる」、[精神]では「わからない」、その他の区分では「できない」が最も高くなっています。



単位：%		できる	できない	わからない	不明・無回答
全体 (n=216)		34.3	31.0	25.9	8.8
年齢別	18～19歳 (n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0
	20～29歳 (n=16)	18.8	56.3	18.8	6.3
	30～39歳 (n=14)	28.6	42.9	28.6	0.0
	40～49歳 (n=24)	33.3	33.3	25.0	8.3
	50～59歳 (n=29)	37.9	24.1	34.5	3.4
	60～69歳 (n=44)	38.6	29.5	22.7	9.1
	70～79歳 (n=77)	36.4	27.3	27.3	9.1
	80歳以上 (n=7)	14.3	42.9	14.3	28.6
障害種別	身体 (n=151)	37.7	27.2	25.2	9.9
	療育 (n=54)	13.0	61.1	14.8	11.1
	精神 (n=37)	29.7	21.6	40.5	8.1
	難病 (n=21)	23.8	47.6	19.0	9.5
	発達障害 (n=22)	13.6	54.5	22.7	9.1
	高次脳機能障害 (n=3)	0.0	66.7	33.3	0.0

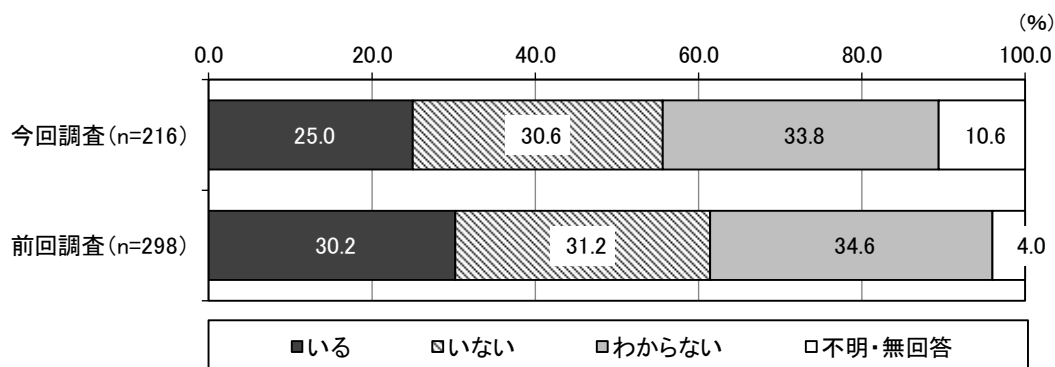
問 39 家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか。

(あてはまるもの1つに○)

あなたを助けてくれる人はいるかについてみると、「わからない」が 33.8%と最も高く、次いで「いない」が 30.6%、「いる」が 25.0%となっており、前回調査と比較すると「いる」の割合が減少していることがわかります。

年齢別にみると、[30～39歳][40～49歳][50～59歳]では「いない」、その他の年齢では「わからない」が最も高くなっています。

障害種別にみると、[身体][療育]では「わからない」、その他の区分では「いない」が最も高くなっています。



単位: %		いる	いない	わからない	不明・無回答
全体 (n=216)		25.0	30.6	33.8	10.6
年齢別	18～19歳 (n=1)	0.0	0.0	100.0	0.0
	20～29歳 (n=16)	18.8	31.3	43.8	6.3
	30～39歳 (n=14)	28.6	57.1	14.3	0.0
	40～49歳 (n=24)	29.2	37.5	16.7	16.7
	50～59歳 (n=29)	31.0	34.5	27.6	6.9
	60～69歳 (n=44)	29.5	22.7	38.6	9.1
	70～79歳 (n=77)	20.8	29.9	39.0	10.4
	80歳以上 (n=7)	14.3	14.3	57.1	14.3
障害種別	身体 (n=151)	27.8	29.8	31.8	10.6
	療育 (n=54)	24.1	27.8	33.3	14.8
	精神 (n=37)	8.1	43.2	35.1	13.5
	難病 (n=21)	19.0	38.1	28.6	14.3
	発達障害 (n=22)	13.6	40.9	27.3	18.2
	高次脳機能障害 (n=3)	0.0	0.0	66.7	33.3

6. 将来の暮らしについて（障害のある方用）

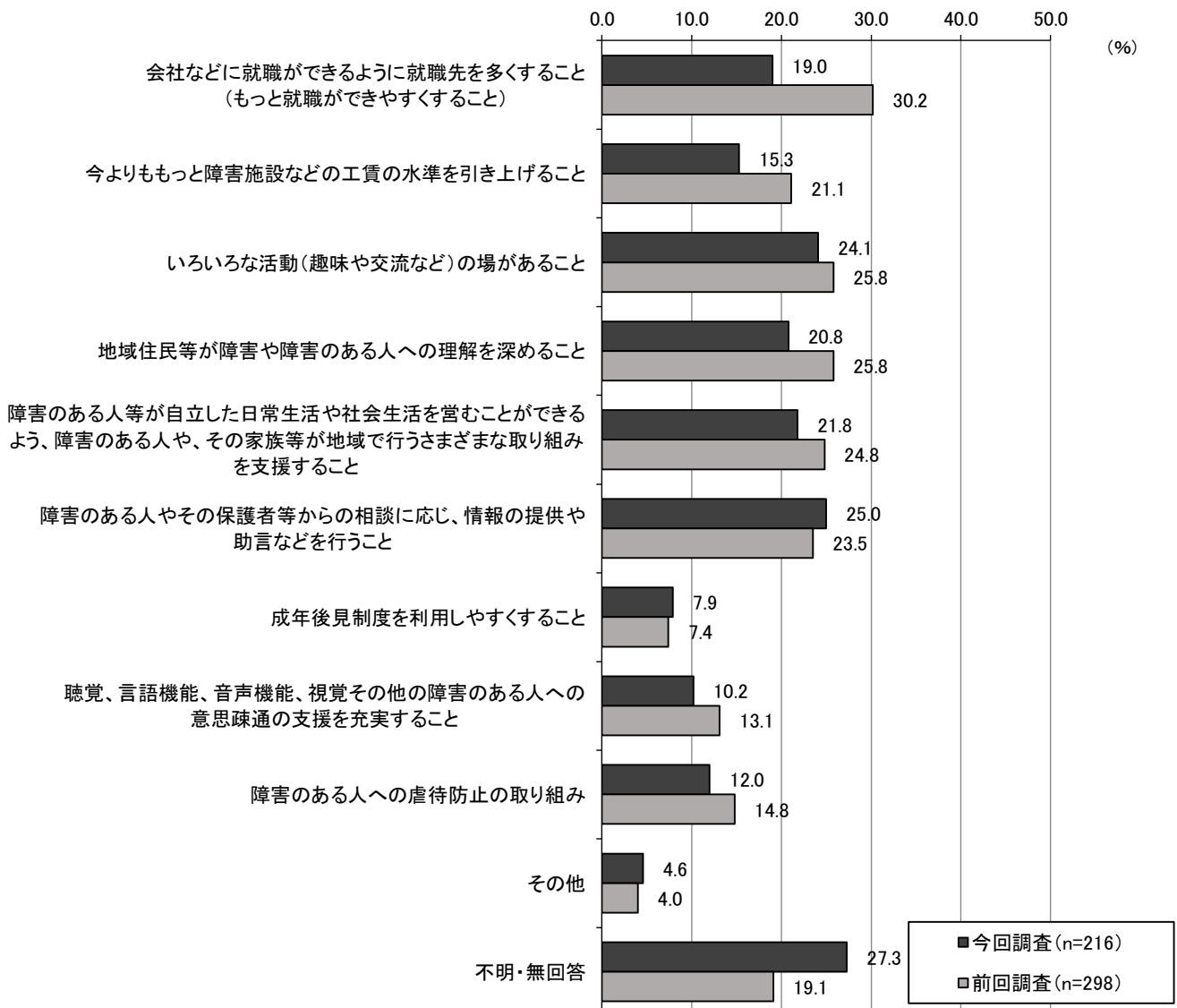
問 43 今後あなたが障害者福祉に必要なだと思うことは何ですか。（あてはまるもの3つまでに○）

障害者福祉に必要なだと思うことについてみると、「障害のある人やその保護者等からの相談に応じ、情報の提供や助言などを行うこと」が 25.0%と最も高く、次いで「いろいろな活動(趣味や交流など)の場があること」が 24.1%、「障害のある人等が自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう、障害のある人や、その家族等が地域で行うさまざまな取り組みを支援すること」が 21.8%となっています。

前回と比較すると、「会社などに就職ができるように就職先を多くすること(もっと就職がしやすいこと)」「地域住民等が障害や障害のある人への理解を深めること」の割合が減少し、「障害のある人やその保護者等からの相談に応じ、情報の提供や助言などを行うこと」の割合が増加していることがわかります。

年齢別にみると、[20～29 歳][30～39 歳]では「会社などに就職ができるように就職先を多くすること(もっと就職がしやすいこと)」、[50～59 歳]では「今よりもっと障害施設などの工賃の水準を引き上げること」、[70～79 歳]では「地域住民等が障害や障害のある人への理解を深めること」、その他の年齢では「障害のある人やその保護者等からの相談に応じ、情報の提供や助言などを行うこと」が最も高くなっています。

障害種別にみると、[身体]では「地域住民等が障害や障害のある人への理解を深めること」、[療育]では「いろいろな活動(趣味や交流など)の場があること」、その他の区分では「障害のある人やその保護者等からの相談に応じ、情報の提供や助言などを行うこと」が最も高くなっています。



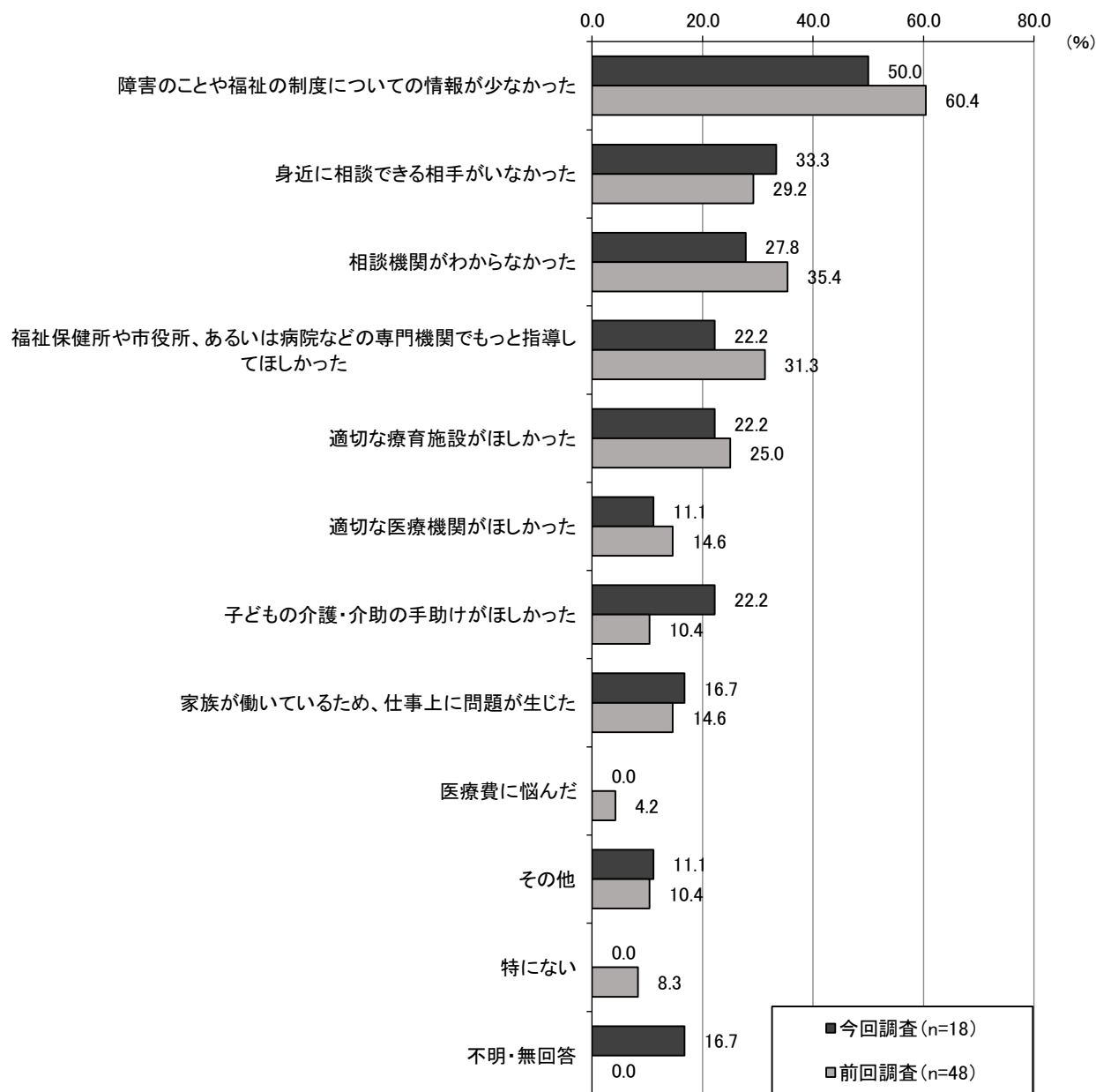
単位：%		会社などに就職ができるように就職先を多くすること(もつと就職ができるやすくすること)	今よりもつと障害施設などの工賃の水準を引き上げること	いろいろな活動(趣味や交流など)の場があること	地域住民等が障害や障害のある人への理解を深めること	障害のある人等が自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう、障害のある人や、その家族等が地域で行うさまざまな取り組みを支援すること	障害のある人やその保護者等からの相談に応じ、情報の提供や助言などを行うこと	成年後見制度を利用しやすくすること	聴覚、言語機能、音声機能、視覚その他の障害のある人への意思疎通の支援を充実すること	障害のある人への虐待防止の取り組み	その他	不明・無回答
		19.0	15.3	24.1	20.8	21.8	25.0	7.9	10.2	12.0	4.6	27.3
全体(n=216)		19.0	15.3	24.1	20.8	21.8	25.0	7.9	10.2	12.0	4.6	27.3
年齢別	18～19歳(n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	20～29歳(n=16)	43.8	37.5	31.3	6.3	18.8	31.3	18.8	0.0	12.5	6.3	18.8
	30～39歳(n=14)	35.7	7.1	14.3	14.3	28.6	14.3	14.3	14.3	7.1	0.0	28.6
	40～49歳(n=24)	20.8	12.5	16.7	20.8	33.3	37.5	4.2	4.2	16.7	4.2	16.7
	50～59歳(n=29)	31.0	34.5	27.6	27.6	24.1	17.2	6.9	13.8	3.4	6.9	13.8
	60～69歳(n=44)	13.6	11.4	29.5	18.2	18.2	34.1	6.8	6.8	11.4	4.5	34.1
	70～79歳(n=77)	9.1	9.1	23.4	24.7	19.5	22.1	7.8	14.3	15.6	3.9	29.9
	80歳以上(n=7)	14.3	14.3	28.6	28.6	28.6	0.0	0.0	14.3	0.0	14.3	28.6
障害種別	身体(n=151)	15.2	11.3	23.8	25.8	22.5	25.2	5.3	11.9	12.6	4.6	29.1
	療育(n=54)	18.5	24.1	29.6	11.1	14.8	22.2	20.4	7.4	9.3	1.9	25.9
	精神(n=37)	27.0	18.9	29.7	13.5	24.3	35.1	2.7	2.7	8.1	5.4	24.3
	難病(n=21)	0.0	14.3	14.3	23.8	19.0	33.3	0.0	9.5	23.8	4.8	33.3
	発達障害(n=22)	18.2	13.6	27.3	4.5	18.2	40.9	13.6	4.5	13.6	4.5	31.8
	高次脳機能障害(n=3)	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	66.7	0.0	33.3

7. お子さんの状況について（障害のある児童用）

問 11 お子さんの障害の状況について、診断・判定を受けた頃、ご家族の皆さんには、どんな苦勞、悩み、不安がありましたか。（あてはまるもの3つまでに○）

苦勞、悩み、不安についてみると、「障害のことや福祉の制度についての情報が少なかった」が 50.0%と最も高く、次いで「身近に相談できる相手がいなかった」が 33.3%、「相談機関がわからなかった」が 27.8%となっています。

前回と比較すると、「子どもの介護・介助の手助けがほしかった」の割合が大きく増加していることがわかります。

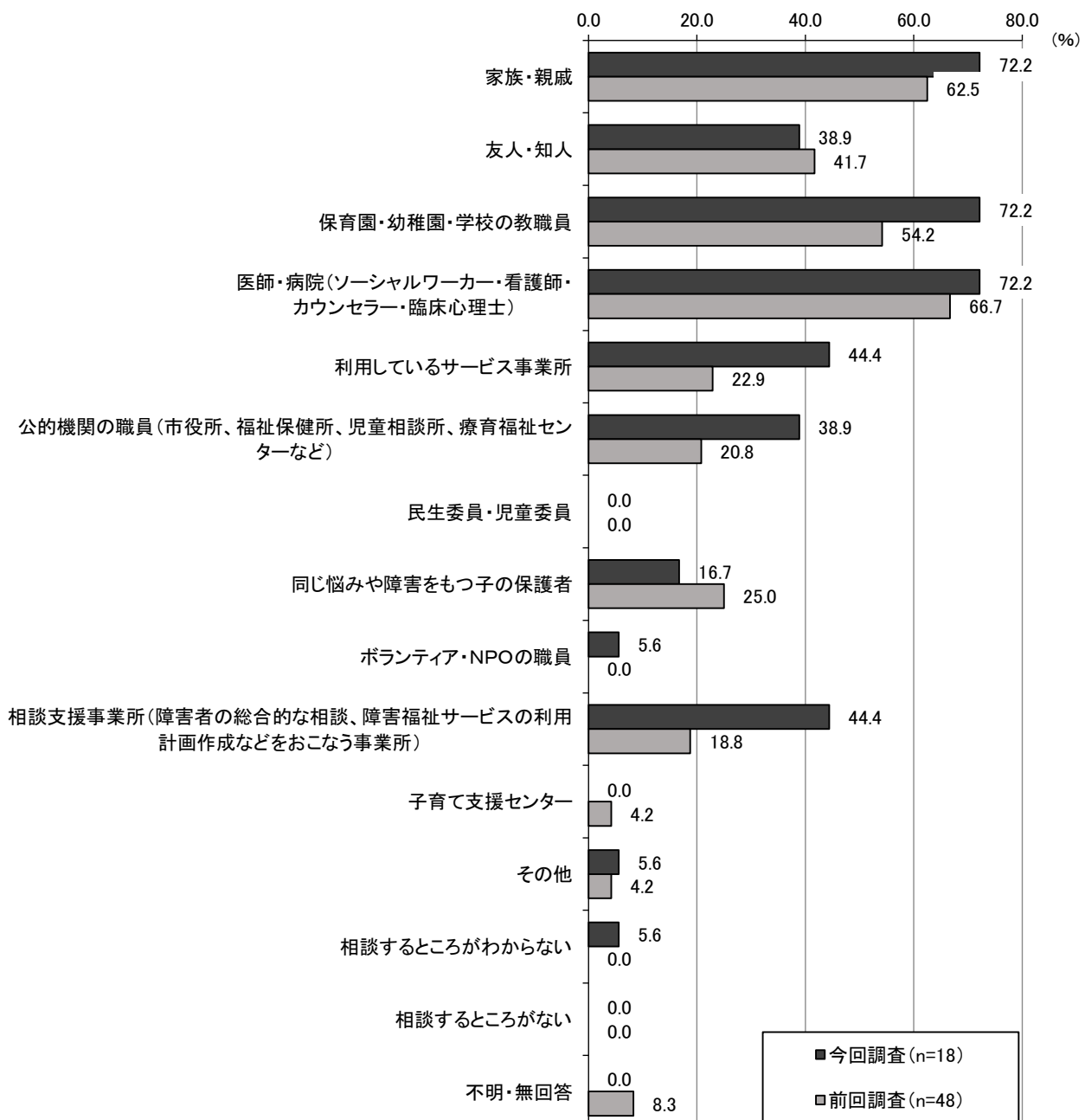


8. お子さんの相談について（障害のある児童用）

問 17 お子さんのことで悩んでいることや困っていることについて、相談するのは誰（どこ）ですか。
（あてはまるものすべてに○）

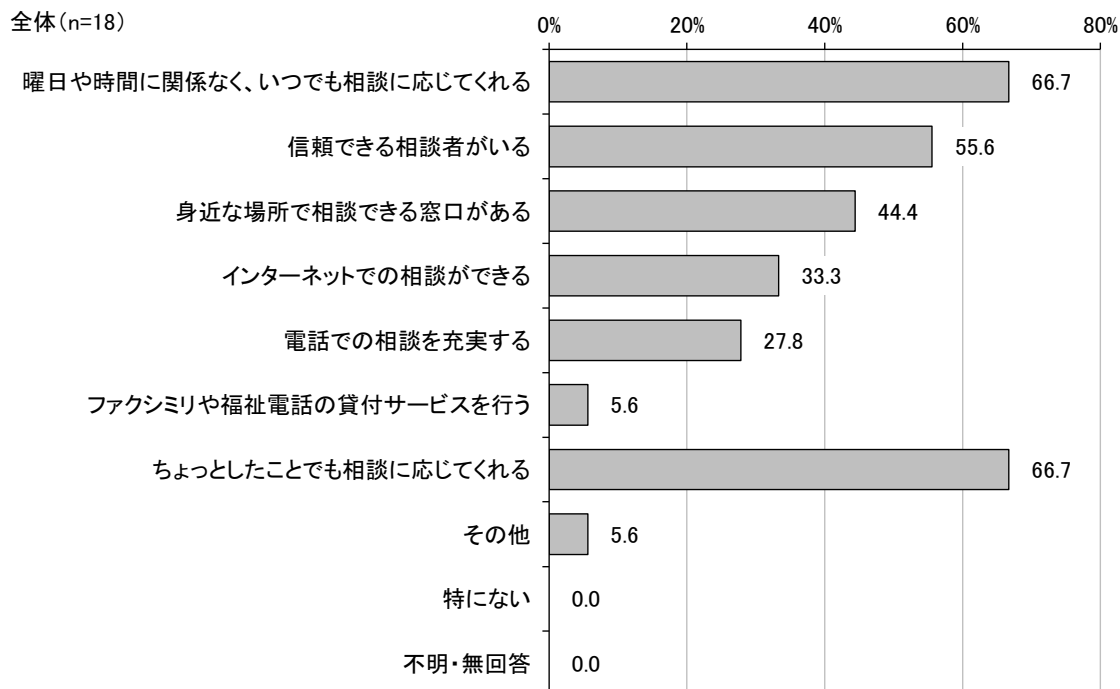
相談するのは誰（どこ）かについてみると、「家族・親戚」「保育園・幼稚園・学校の教職員」「医師・病院（ソーシャルワーカー・看護師・カウンセラー・臨床心理士）」が 72.2%と最も高く、次いで「利用しているサービス事業所」「相談支援事業所（障害者の総合的な相談、障害福祉サービスの利用計画作成などをおこなう事業所）」が 44.4%、「友人・知人」「公的機関の職員（市役所、福祉保健所、児童相談所、療育福祉センターなど）」が 38.9%となっています。

前回と比較すると、「家族・親戚」「保育園・幼稚園・学校の教職員」「医師・病院（ソーシャルワーカー・看護師・カウンセラー・臨床心理士）」「利用しているサービス事業所」「公的機関の職員（市役所、福祉保健所、児童相談所、療育福祉センターなど）」「相談支援事業所（障害者の総合的な相談、障害福祉サービスの利用計画作成などをおこなう事業所）」の割合が大きく増加していることがわかります。



問 18 お子さんのことで相談機関に相談しやすい体制をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

相談しやすい体制をつくるために必要なことについてみると、「曜日や時間に関係なく、いつでも相談に応じてくれる」「ちょっとしたことでも相談に応じてくれる」が66.7%と最も高く、次いで「信頼できる相談者がいる」が55.6%、「身近な場所で相談できる窓口がある」が44.4%となっています。

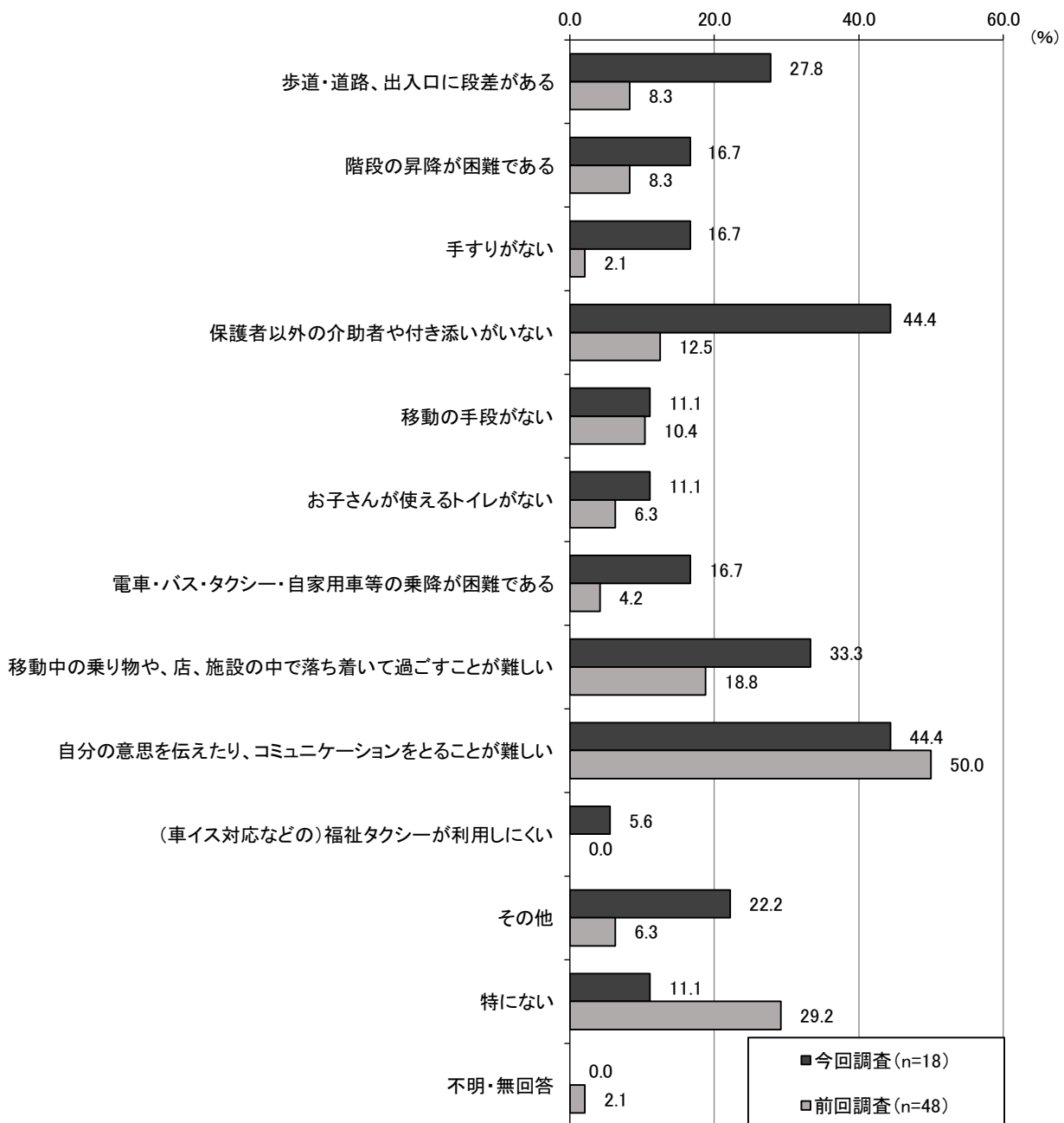


9. お子さんの外出について（障害のある児童用）

問 21 お子さんと一緒に、またはお子さんが一人で外出するときに困ったり不便に感じたりすることは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

外出時に困ったり不便に感じたりすることについてみると、「保護者以外の介助者や付き添いがいない」「自分の意思を伝えたり、コミュニケーションをとることが難しい」が44.4%と最も高く、次いで「移動中の乗り物や、店、施設の中で落ち着いて過ごすことが難しい」が33.3%、「歩道・道路、出入口に段差がある」が27.8%となっています。

前回と比較すると、「保護者以外の介助者や付き添いがいない」ことに不便を感じる人の割合が大きく増加していることがわかります。

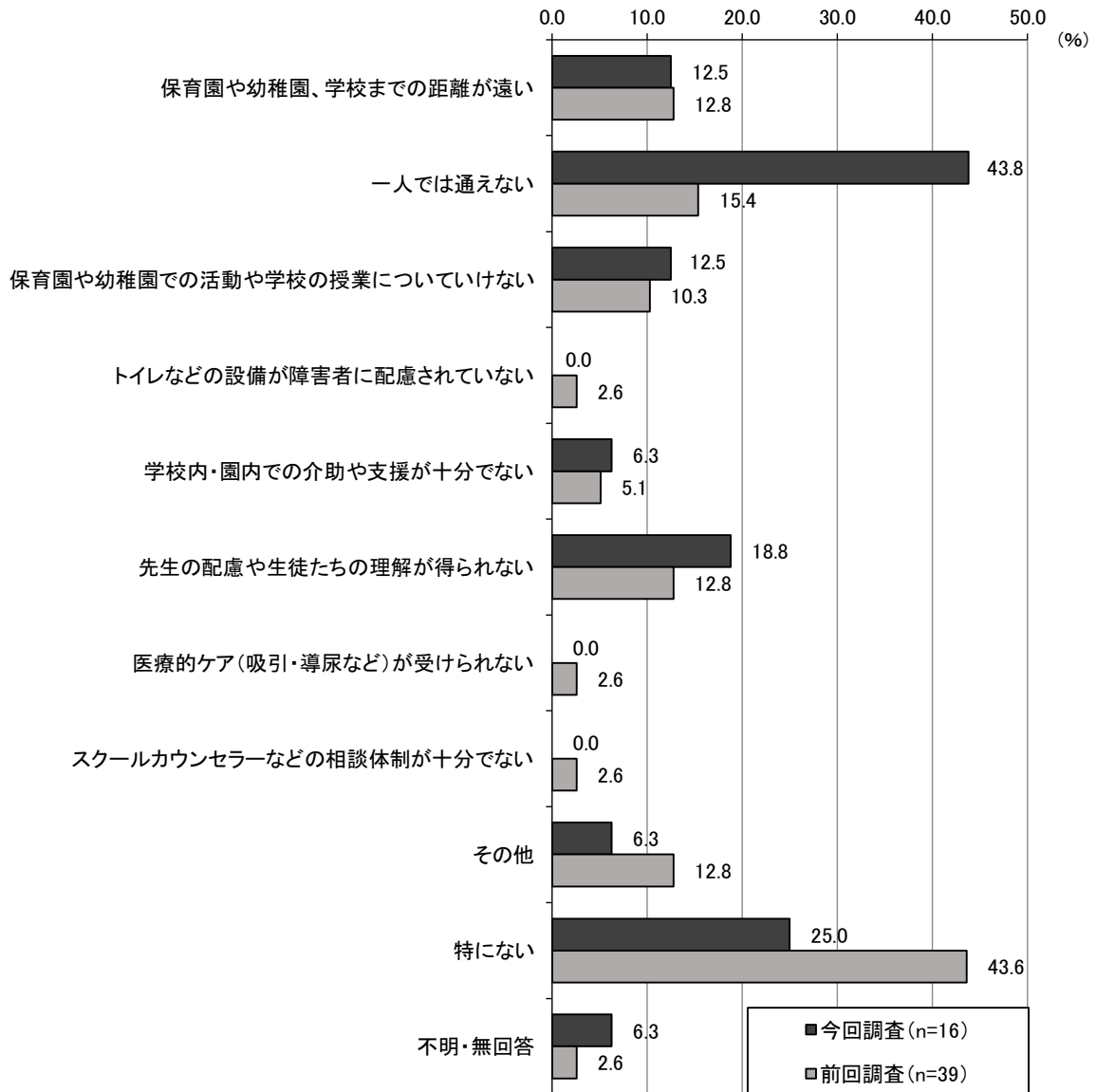


10. お子さんの療育や保育・教育について（障害のある児童用）

問 29 通園・通学で困っていることがありますか。（あてはまるものすべてに○）

通園・通学で困っていることについてみると、「一人では通えない」が 43.8%と最も高く、次いで「特にない」が 25.0%、「先生の配慮や生徒たちの理解が得られない」が 18.8%となっています。

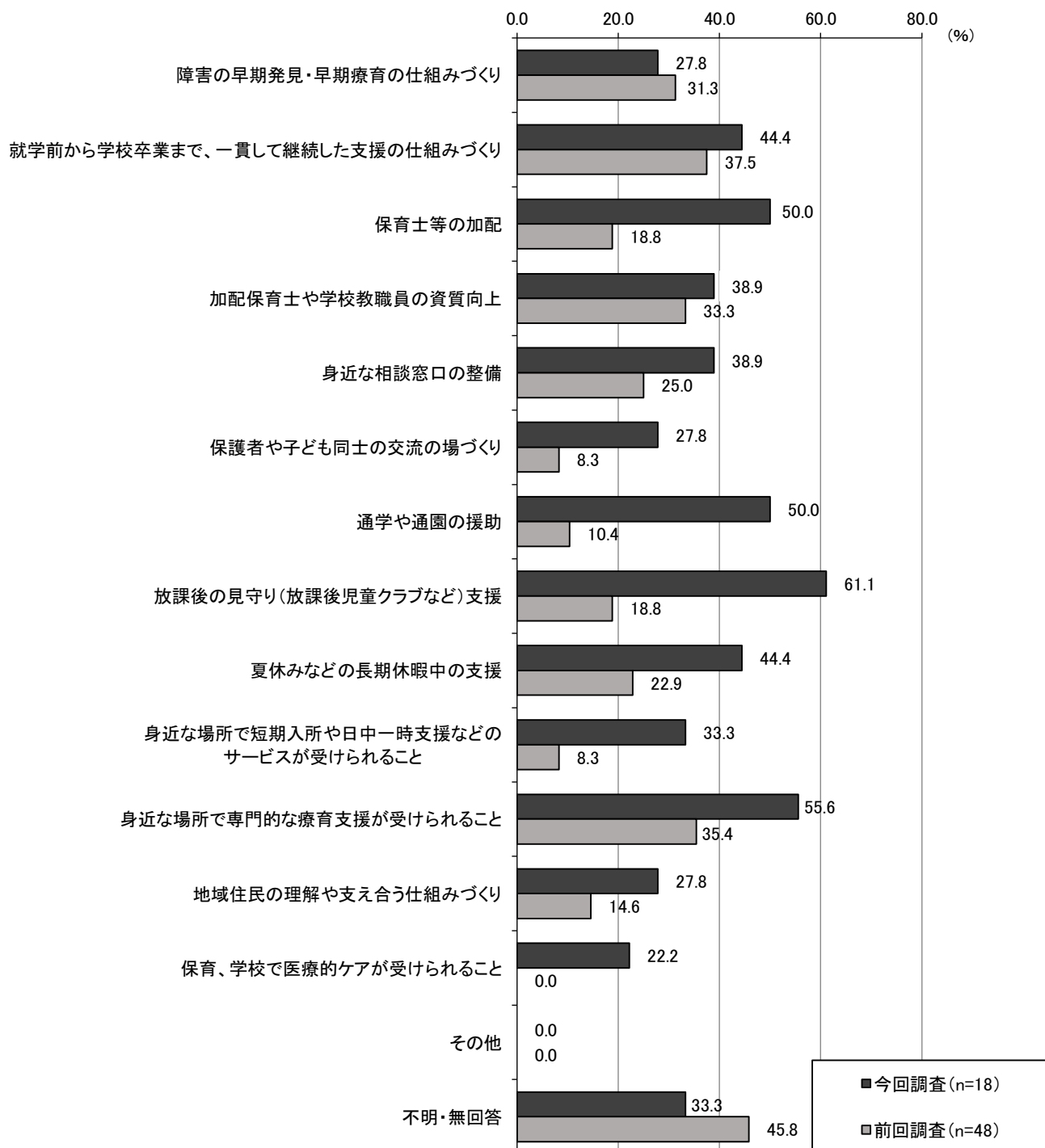
前回と比較すると、「一人では通えない」人の割合が大きく増加していることがわかります。



問 31-1 必要だと思う支援—ご本人(お子さん)

ご本人(お子さん)が必要な支援についてみると、「放課後の見守り(放課後児童クラブなど)支援」が 61.1%と最も高く、次いで「身近な場所で専門的な療育支援が受けられること」が 55.6%、「保育士等の加配」「通学や通園の援助」が 50.0%となっています。

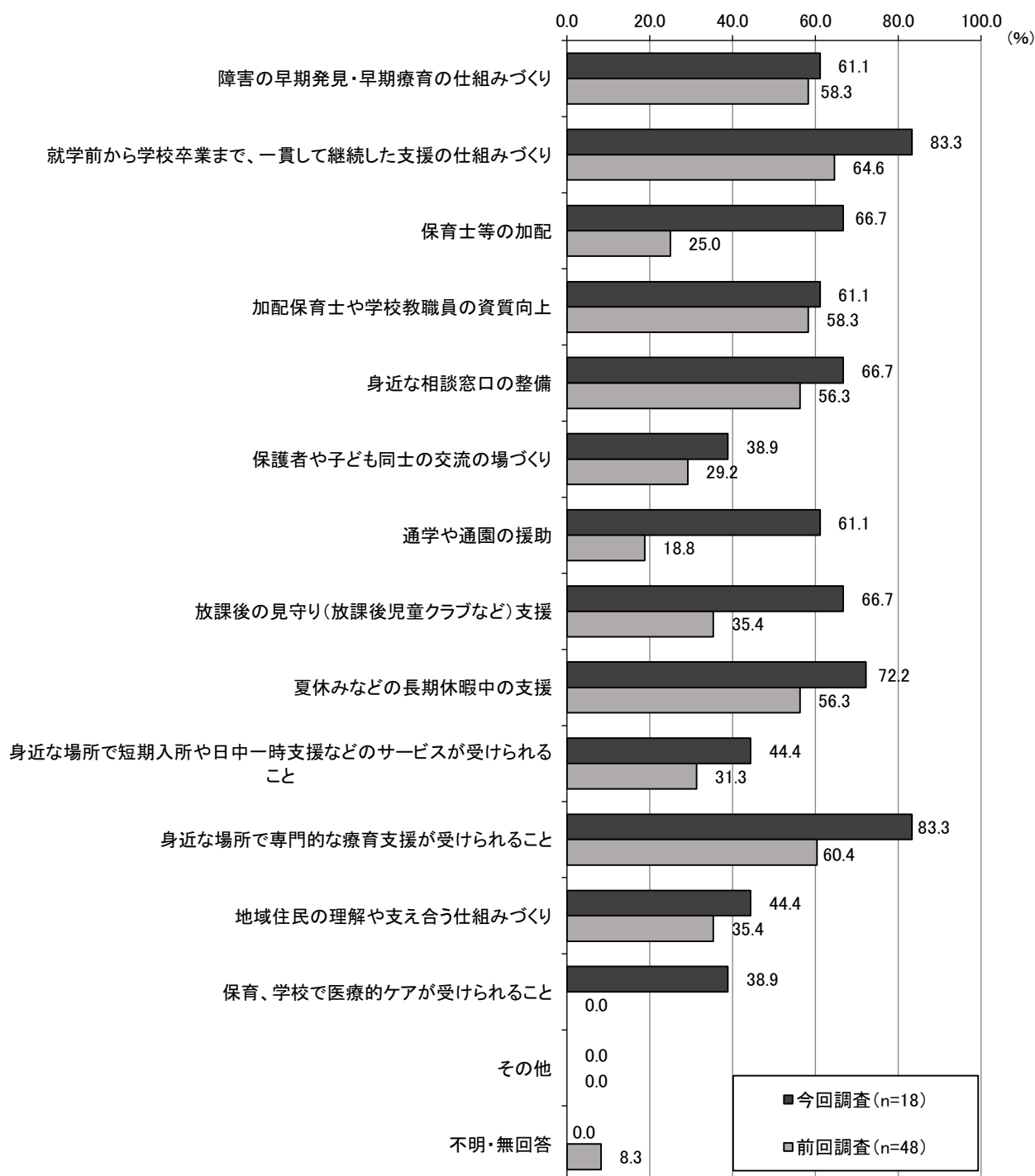
前回と比較すると、「通学や通園の援助」「放課後の見守り(放課後児童クラブなど)支援」の割合が大きく増加していることがわかります。



問 31-2 必要だと思う支援—家族等

家族等が必要な支援についてみると、「就学前から学校卒業まで、一貫して継続した支援の仕組みづくり」「身近な場所で専門的な療育支援が受けられること」が 83.3%と最も高く、次いで「夏休みなどの長期休暇中の支援」が 72.2%、「保育士等の加配」「身近な相談窓口の整備」「放課後の見守り(放課後児童クラブなど)支援」が 66.7%となっています。

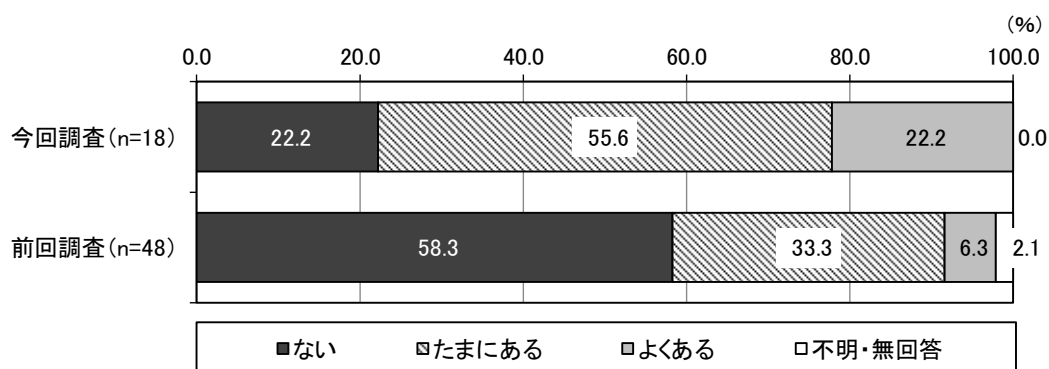
前回と比較すると、「保育士等の加配」「通学や通園の援助」「放課後の見守り(放課後児童クラブなど)支援」「保育、学校で医療的ケアが受けられること」の割合が大きく増加していることがわかります。



11. 障害者差別について（障害のある児童用）

問 32 あなたはこれまでに障害等を理由に差別と感じたり、いやな思いをしたことがありますか。（あてはまるもの1つに○）

差別と感じたり、いやな思いをしたことがあるかについてみると、「たまにある」が 55.6%と最も高く、次いで「ない」「よくある」が 22.2%となっており、前回調査と比較すると「たまにある」人の割合が増加していることがわかります。

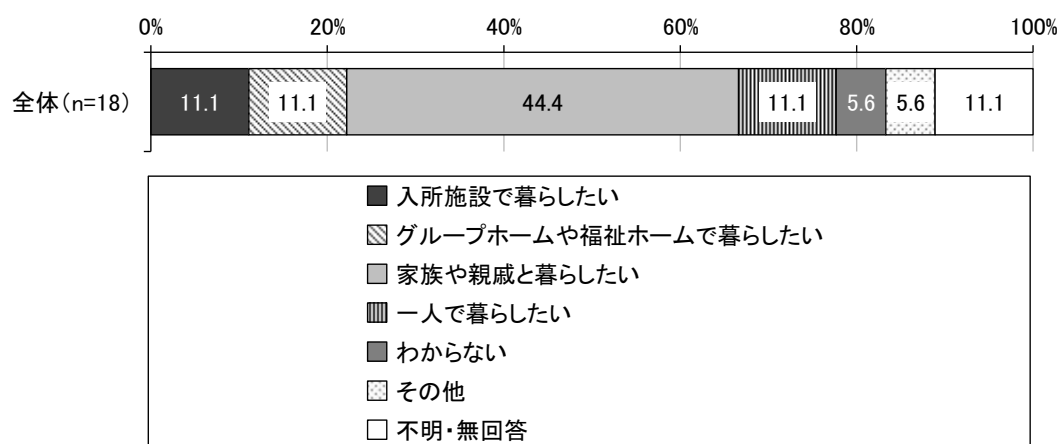


12. お子さんの将来の暮らしについて（障害のある児童用）

問 39 お子さんが将来ずっと暮らし続ける場所として、どこを希望しますか。

（あてはまるもの1つに○）

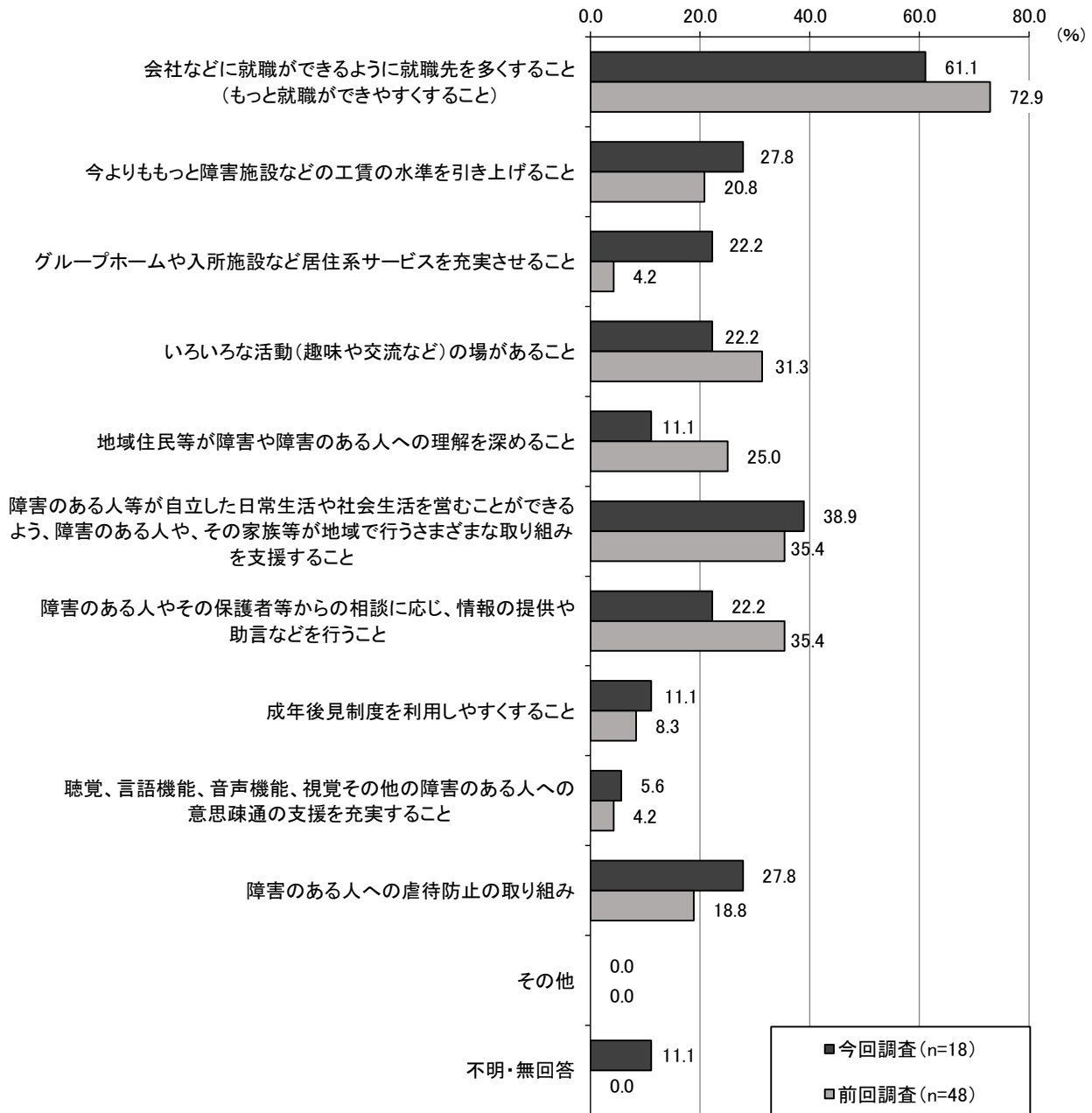
将来ずっと暮らし続ける場所についてみると、「家族や親戚と暮らしたい」が 44.4%と最も高く、次いで「入所施設で暮らしたい」「グループホームや福祉ホームで暮らしたい」「一人で暮らしたい」が 11.1%、「わからない」が 5.6%となっています。



問 40 今後あなたがお子さんのために必要だと思うことは何ですか。(あてはまるもの3つまでに○)

今後必要だと思うことについてみると、「会社などに就職ができるように就職先を多くすること(もっと就職がしやすいこと)」が 61.1%と最も高く、次いで「障害のある人等が自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう、障害のある人や、その家族等が地域で行うさまざまな取り組みを支援すること」が 38.9%、「今よりもっと障害施設などの工賃の水準を引き上げること」「障害のある人への虐待防止の取り組み」が 27.8%となっています。

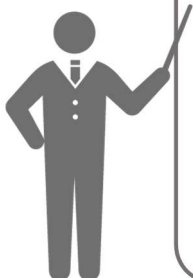
前回と比較すると、「グループホームや入所施設など居住系サービスを充実させること」の割合が大きく増加していることがわかります。



【自由回答より】

- 高校入学へのハードルを下げしてほしい
- 将来に向けての対策が取れるようセミナーに参加したい
- 学校等に障がい児のサポート全般に詳しい人材の配置

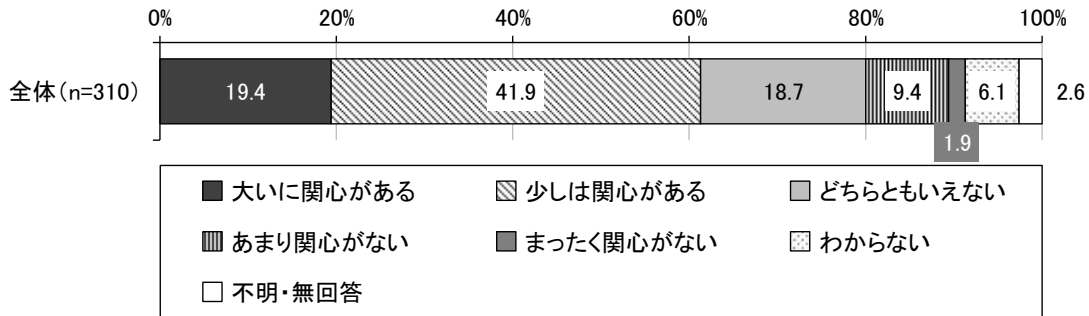
といったご意見もみられました。



13. 障害者福祉に関する意識について（一般市民用）

問8 あなたは障害者福祉について、どのくらい関心がありますか。（あてはまるもの1つに○）

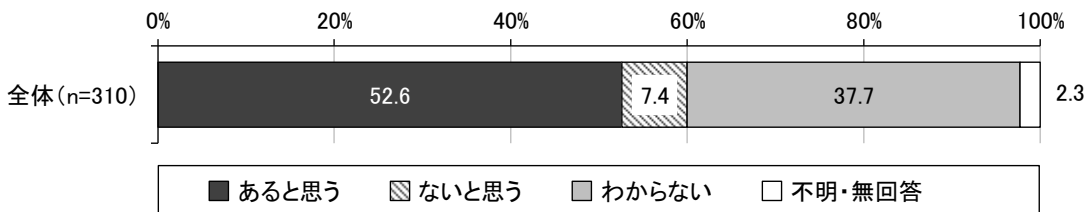
障害者福祉への関心度についてみると、「少しは関心がある」が41.9%と最も高く、次いで「大いに関心がある」が19.4%、「どちらともいえない」が18.7%となっています。



問11 あなたは地域社会の中で、障害のある方に対する差別や偏見があると思いますか。

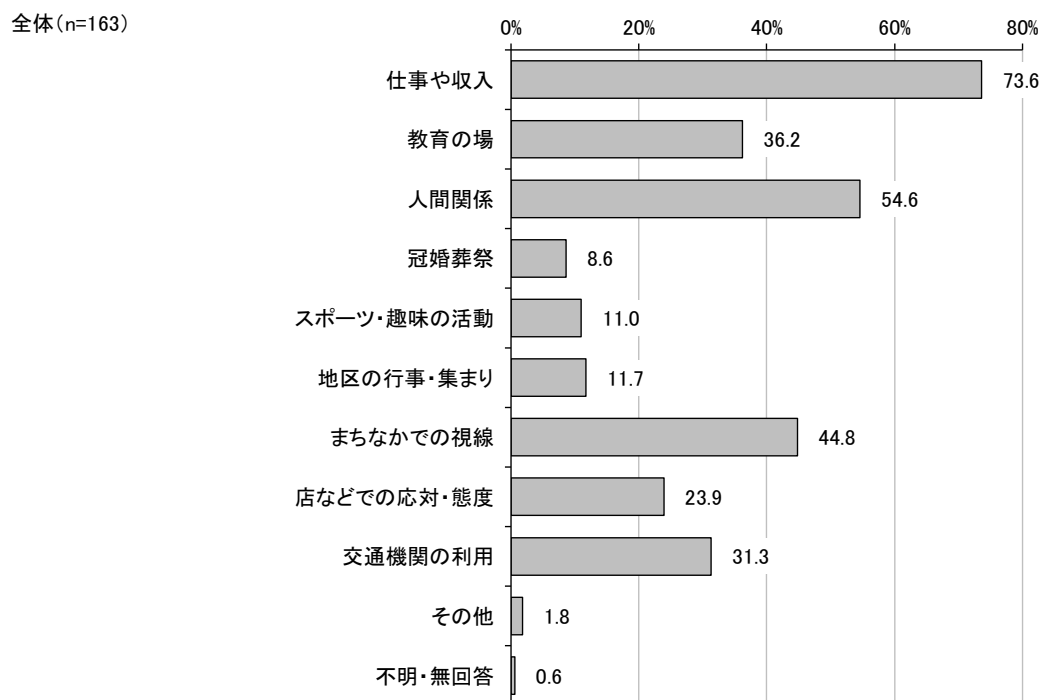
（あてはまるもの1つに○）

障害のある方に対する差別や偏見についてみると、「あると思う」が52.6%と最も高く、次いで「わからない」が37.7%、「ないと思う」が7.4%となっています。



問 12 差別や偏見があると思うのはどのような時ですか。(あてはまるものすべてに○)

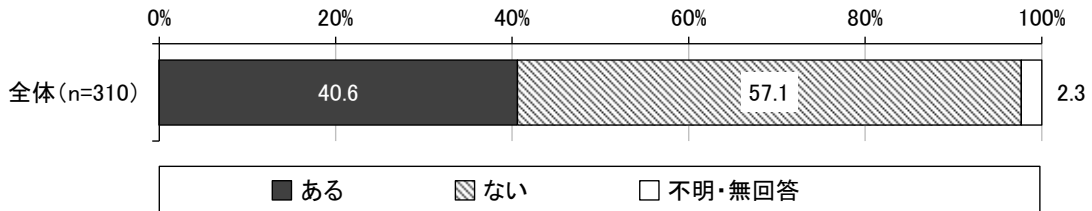
差別や偏見があると思う時についてみると、「仕事や収入」が 73.6%と最も高く、次いで「人間関係」が 54.6%、「まちなかでの視線」が 44.8%となっています。



14. 日常生活における障害のある方との関わりについて（一般市民用）

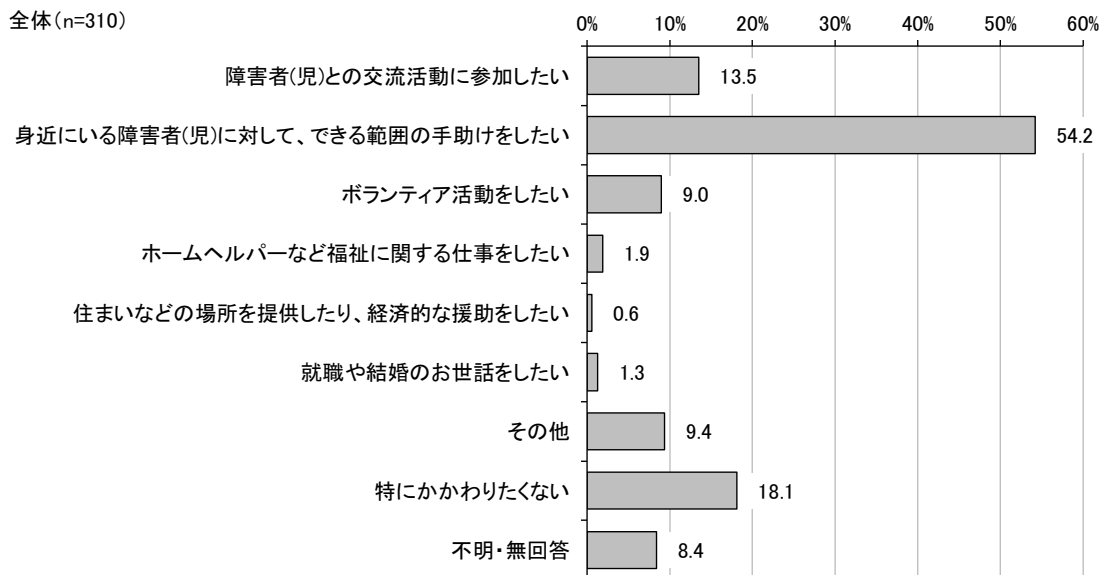
問 20 あなたは日常生活の中で、障害のある方に手助けをしたことの有無がありますか。
（あてはまるもの1つに○）

日常生活の中で、障害のある方に手助けをしたことの有無についてみると、「ない」が 57.1%と、「ある」の 40.6%を上回っています。



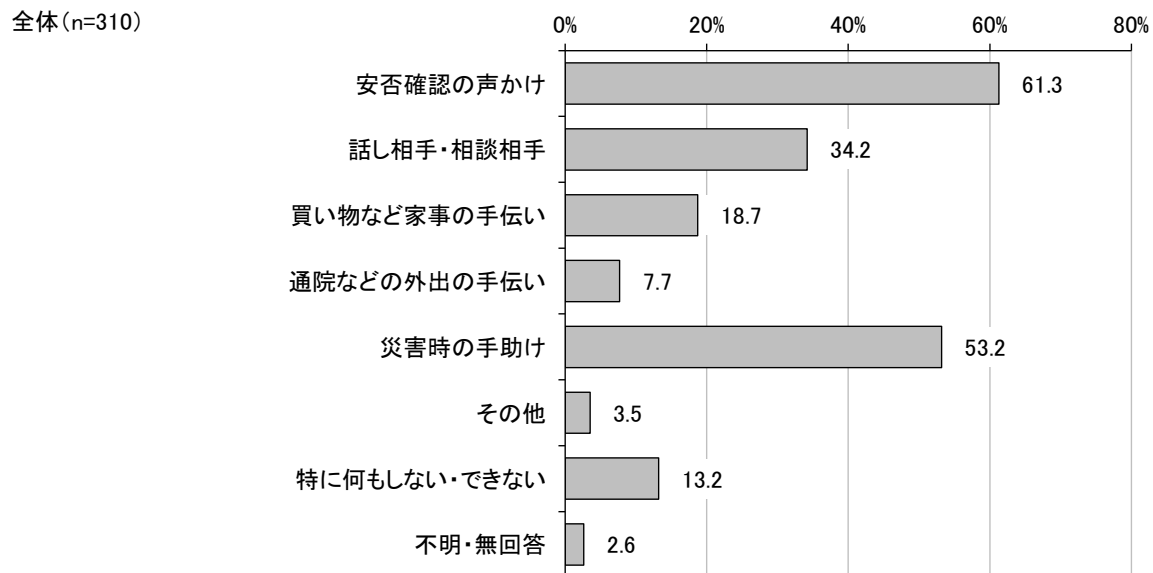
問 23 あなたは、今後、障害のある方とかがかわるとすれば、具体的にはどのような形でかかわりたいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

障害のある方とかがかわるとすれば、どのような形でかかわりたいと思うかについてみると、「身近にいる障害者(児)に対して、できる範囲の手助けをしたい」が 54.2%と最も高く、次いで「特にかかわりたくない」が 18.1%、「障害者(児)との交流活動に参加したい」が 13.5%となっています。



問 24 近所に障害のある方の介助・介護などで困っている家庭があった場合、あなたは、どのような手助けができると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

近所に障害のある方の介助・介護などで困っている家庭があった場合、どのような手助けができると思うかについてみると、「安否確認の声かけ」が 61.3%と最も高く、次いで「災害時の手助け」が 53.2%、「話し相手・相談相手」が 34.2%となっています。



15. ボランティア活動について（一般市民用）

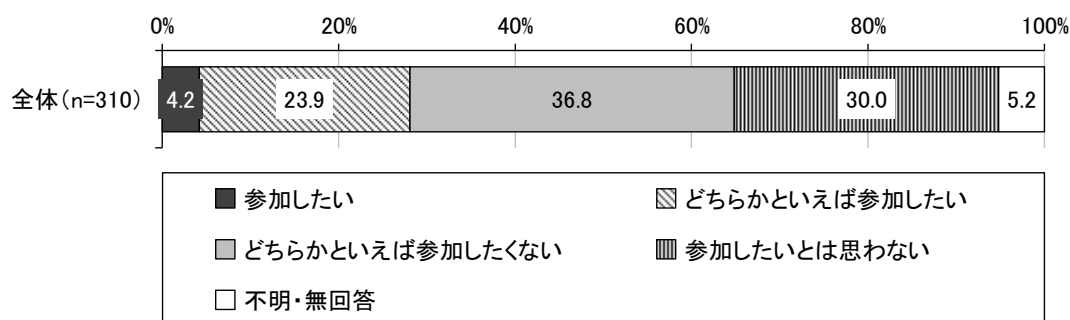
問 26 今後、障害者(児)の福祉関係のボランティア活動に参加したいと思いますか。

(あてはまるもの1つに○)

今後の障害者(児)の福祉関係のボランティア活動への参加意向についてみると、「どちらかといえば参加したくない」が36.8%と最も高く、次いで「参加したいとは思わない」が30.0%、「どちらかといえば参加したい」が23.9%となっています。

年齢別にみると、[20～29歳]では「参加したいとは思わない」、[50～59歳]では「どちらかといえば参加したい」、その他の年齢では「どちらかといえば参加したくない」が最も高くなっています。

身近な障害者の有無別にみると、[身近にいる]では「どちらかといえば参加したくない」、その他の区分では「参加したいとは思わない」が最も高くなっています。



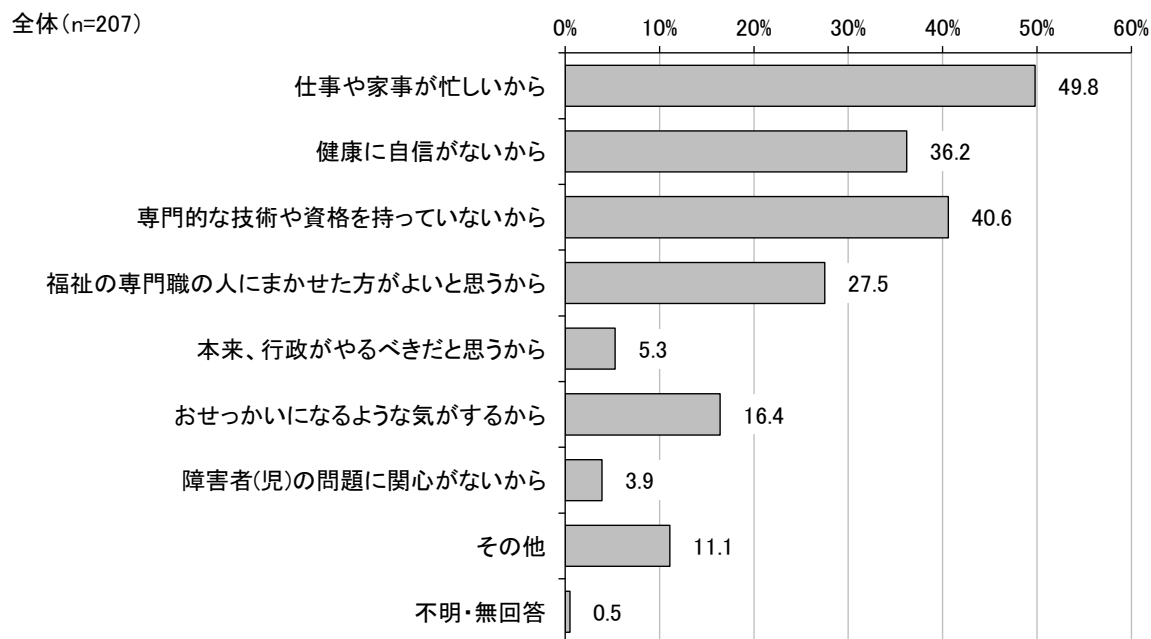
単位: %		参加したい	どちらかといえば参加したい	どちらかといえば参加したくない	参加したいとは思わない	不明・無回答
全体 (n=310)		4.2	23.9	36.8	30.0	5.2
年齢別	19歳以下 (n=6)	16.7	50.0	16.7	16.7	0.0
	20～29歳 (n=14)	0.0	28.6	21.4	50.0	0.0
	30～39歳 (n=27)	3.7	18.5	40.7	33.3	3.7
	40～49歳 (n=57)	5.3	33.3	42.1	17.5	1.8
	50～59歳 (n=46)	2.2	37.0	32.6	26.1	2.2
	60～64歳 (n=27)	3.7	18.5	40.7	37.0	0.0
	65歳以上 (n=132)	4.5	15.9	36.4	33.3	9.8
者身の近 有な障 無別	身近にいる (n=165)	6.1	26.1	38.8	24.8	4.2
	身近にはいない (n=124)	1.6	22.6	34.7	36.3	4.8
	知らない、わからない (n=20)	5.0	15.0	30.0	40.0	10.0

問 28 活動に参加したくない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

活動に参加したくない理由についてみると、「仕事や家事が忙しいから」が49.8%と最も高く、次いで「専門的な技術や資格を持っていないから」が40.6%、「健康に自信がないから」が36.2%となっています。

年齢別にみると、[65歳以上]では「健康に自信がないから」、その他の年齢では「仕事や家事が忙しいから」が最も高くなっています。

身近な障害者の有無別にみると、[知らない、わからない]では「健康に自信がないから」、その他の区分では「仕事や家事が忙しいから」が最も高くなっています。



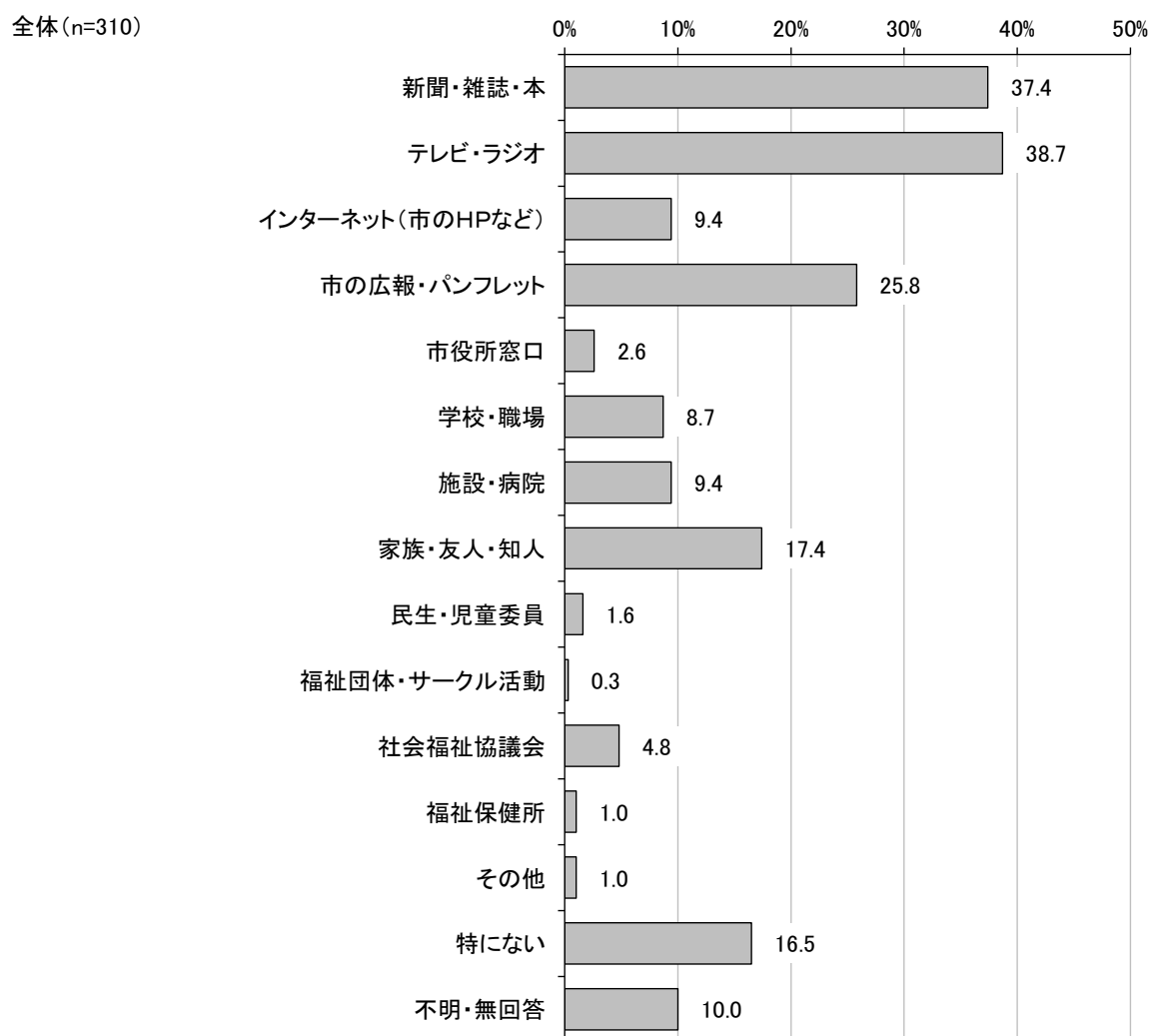
単位: %		仕事や家事が忙しいから	健康に自信がないから	専門的な技術や資格を持っていないから	福祉の専門職の人にまかせた方がよいと思うから	本来、行政がやるべきだと思うから	おせっかいになるような気がするから	障害者(児)の問題に関心がないから	その他	不明・無回答
全体 (n=207)		49.8	36.2	40.6	27.5	5.3	16.4	3.9	11.1	0.5
年齢別	19歳以下 (n=2)	100.0	50.0	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20～29歳 (n=10)	70.0	20.0	30.0	40.0	10.0	30.0	10.0	0.0	0.0
	30～39歳 (n=20)	75.0	20.0	40.0	20.0	10.0	10.0	5.0	20.0	0.0
	40～49歳 (n=34)	76.5	5.9	38.2	14.7	2.9	17.6	2.9	8.8	0.0
	50～59歳 (n=27)	63.0	33.3	48.1	29.6	0.0	22.2	3.7	11.1	0.0
	60～64歳 (n=21)	66.7	38.1	47.6	14.3	0.0	9.5	0.0	9.5	0.0
	65歳以上 (n=92)	23.9	52.2	38.0	34.8	7.6	16.3	4.3	12.0	1.1
者身の近 有な障 無障害	身近にいる (n=105)	57.1	32.4	45.7	24.8	4.8	15.2	2.9	9.5	0.0
	身近にはいない (n=88)	45.5	38.6	35.2	30.7	4.5	17.0	5.7	11.4	1.1
	知らない、わからない (n=14)	35.7	50.0	42.9	21.4	14.3	14.3	0.0	14.3	0.0

16. 障害者福祉に関する情報について（一般市民用）

問 29 あなたは障害者福祉に関する情報について、主にどこから入手していますか。

（あてはまるもの3つまでに○）

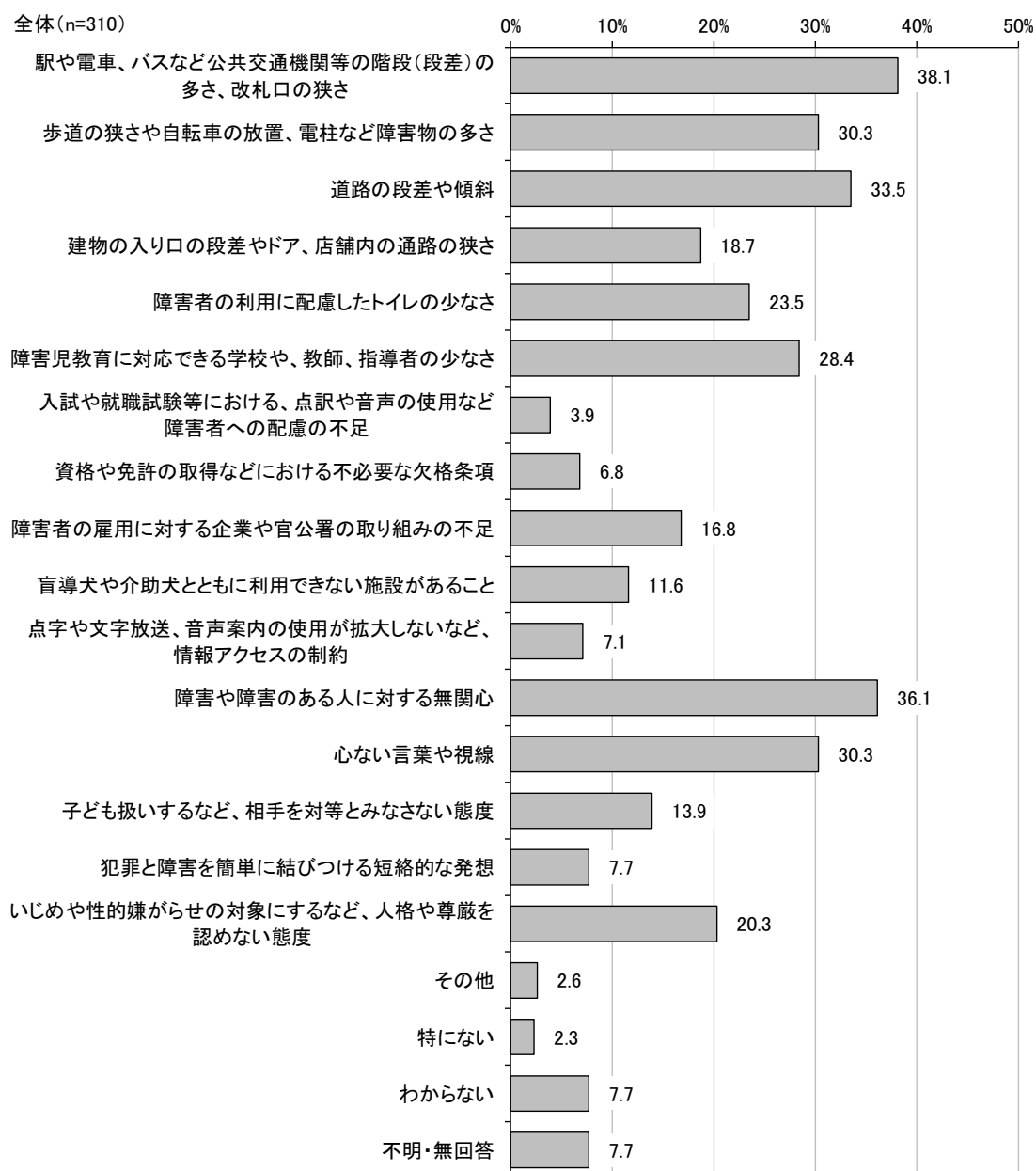
障害者福祉に関する情報の入手先についてみると、「テレビ・ラジオ」が 38.7%と最も高く、次いで「新聞・雑誌・本」が 37.4%、「市の広報・パンフレット」が 25.8%となっています。



17. 今後の障害者福祉について（一般市民用）

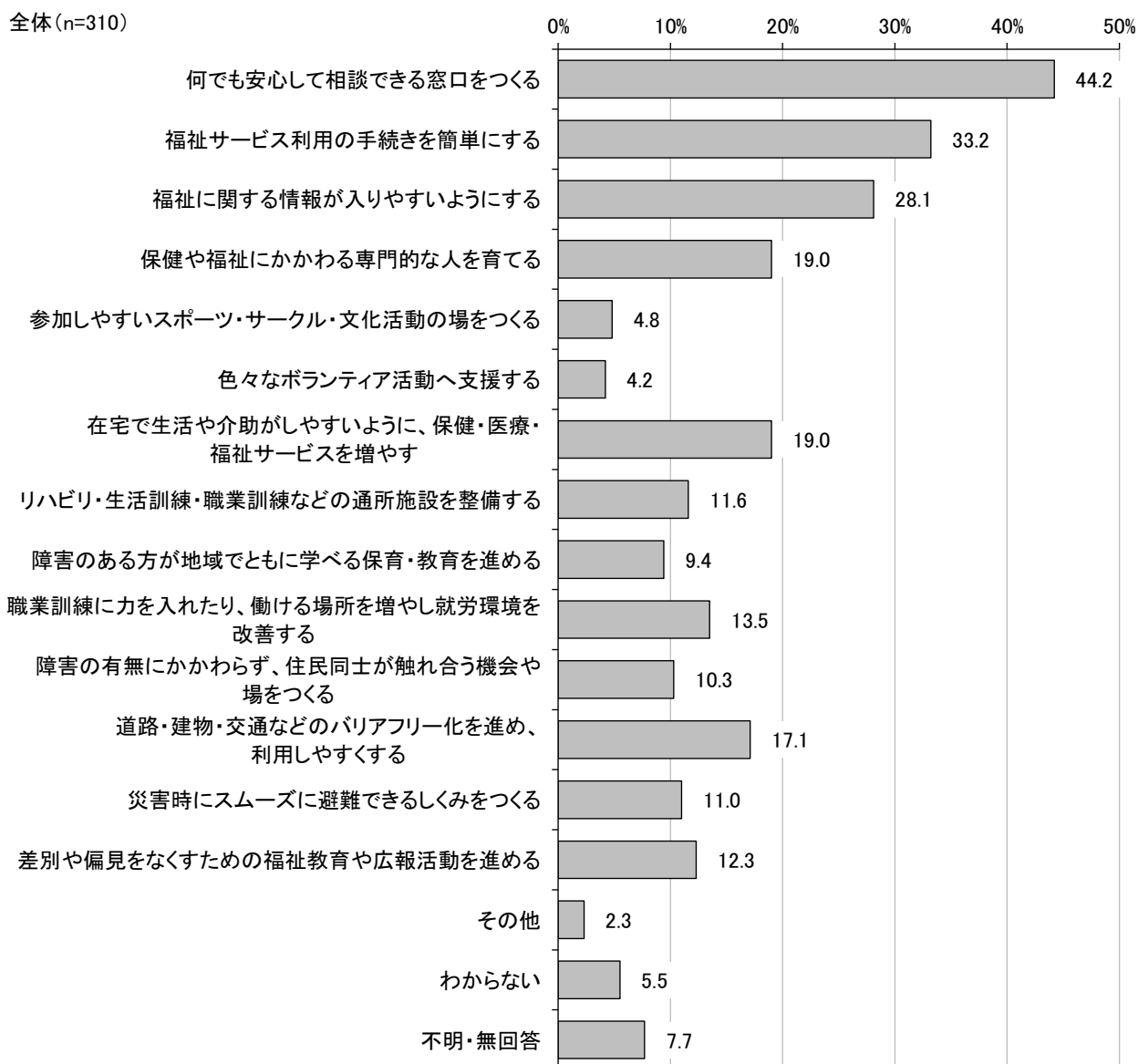
問 30 障害者差別解消法に基づく社会づくりを進めるうえでは、社会的障壁を無くしていくことが重要です。あなたの身の回りを考えた時、社会的障壁を無くしていくことについて、特に大きな課題は何だと思えますか。（あてはまるもの5つまでに○）

社会的障壁の除去に向けた、特に大きな課題についてみると、「駅や電車、バスなど公共交通機関等の階段(段差)の多さ、改札口の狭さ」が 38.1%と最も高く、次いで「障害や障害のある人に対する無関心」が 36.1%、「道路の段差や傾斜」が 33.5%となっています。



問 32 あなたは、障害のある方にとって住みやすいまちをつくるために、今後どのようなことが特に重要だと思いますか。（あてはまるもの3つまでに○）

障害のある方にとって住みやすいまちをつくるために、今後どのようなことが特に重要だと思うかについてみると、「何でも安心して相談できる窓口をつくる」が 44.2%と最も高く、次いで「福祉サービス利用の手続きを簡単にする」が 33.2%、「福祉に関する情報が入りやすいようにする」が 28.1%となっています。

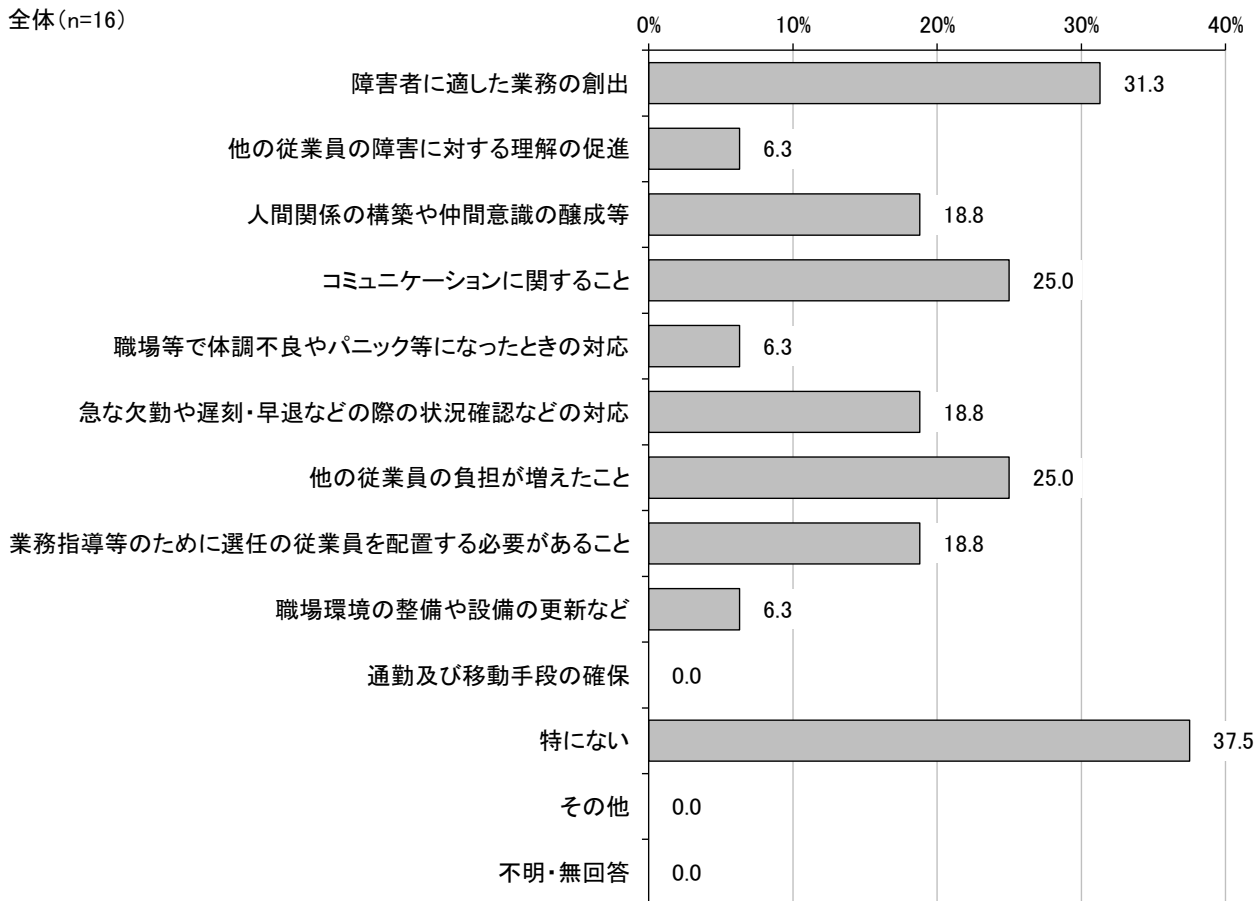


18. 障害のある方の雇用状況等について（事業者用）

問 13 障害者を雇用して、困ったことや負担に感じたことはありますか。

（あてはまるものすべてに○）

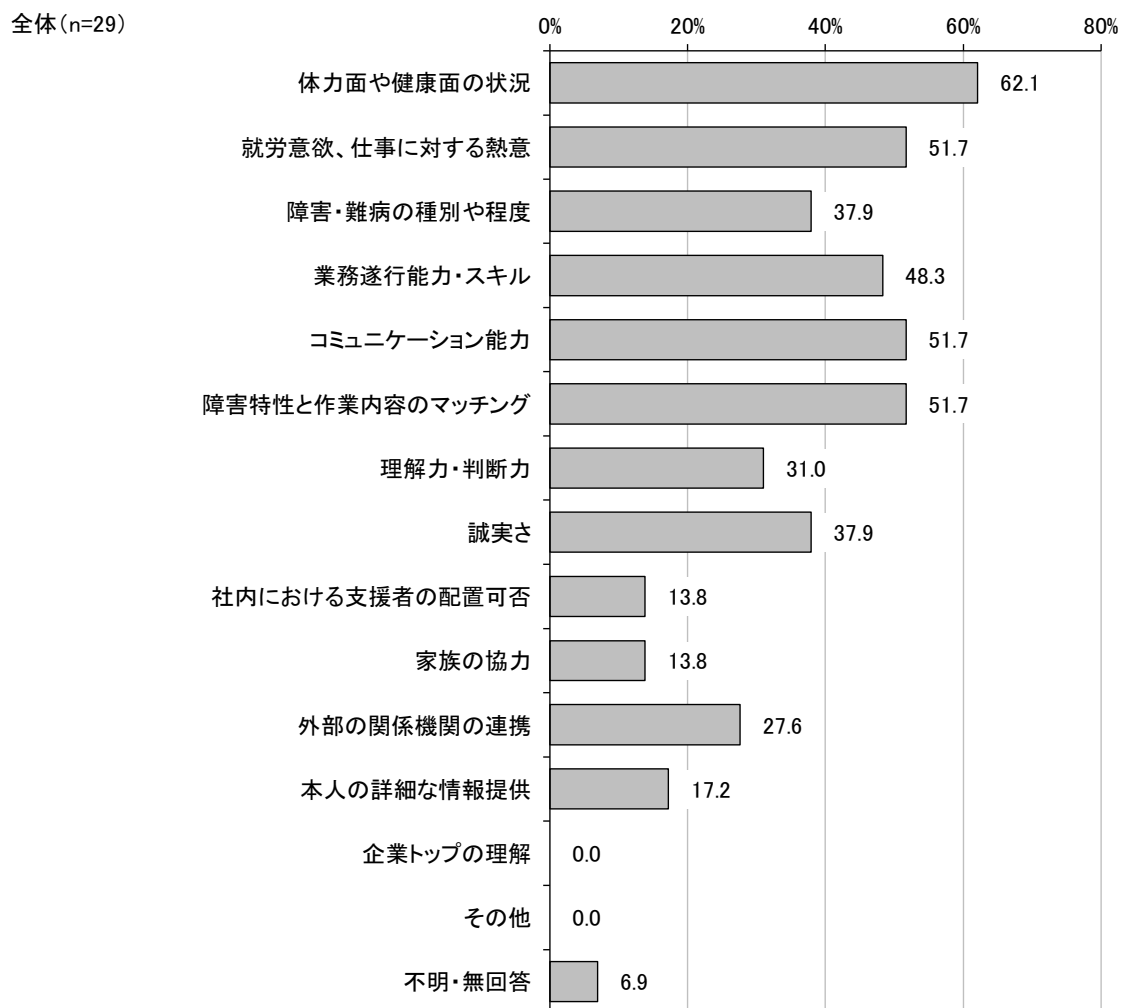
障害者を雇用して困ったことや負担に感じたことについてみると、「特にない」が 37.5%と最も高く、次いで「障害者に適した業務の創出」が 31.3%、「コミュニケーションに関すること」「他の従業員の負担が増えたこと」が 25.0%となっています。



19. 今後の障害のある方の雇用等について（事業者用）

問 18 障害者を雇用するにあたって、どのようなことを重視しますか。（あてはまるものすべてに○）

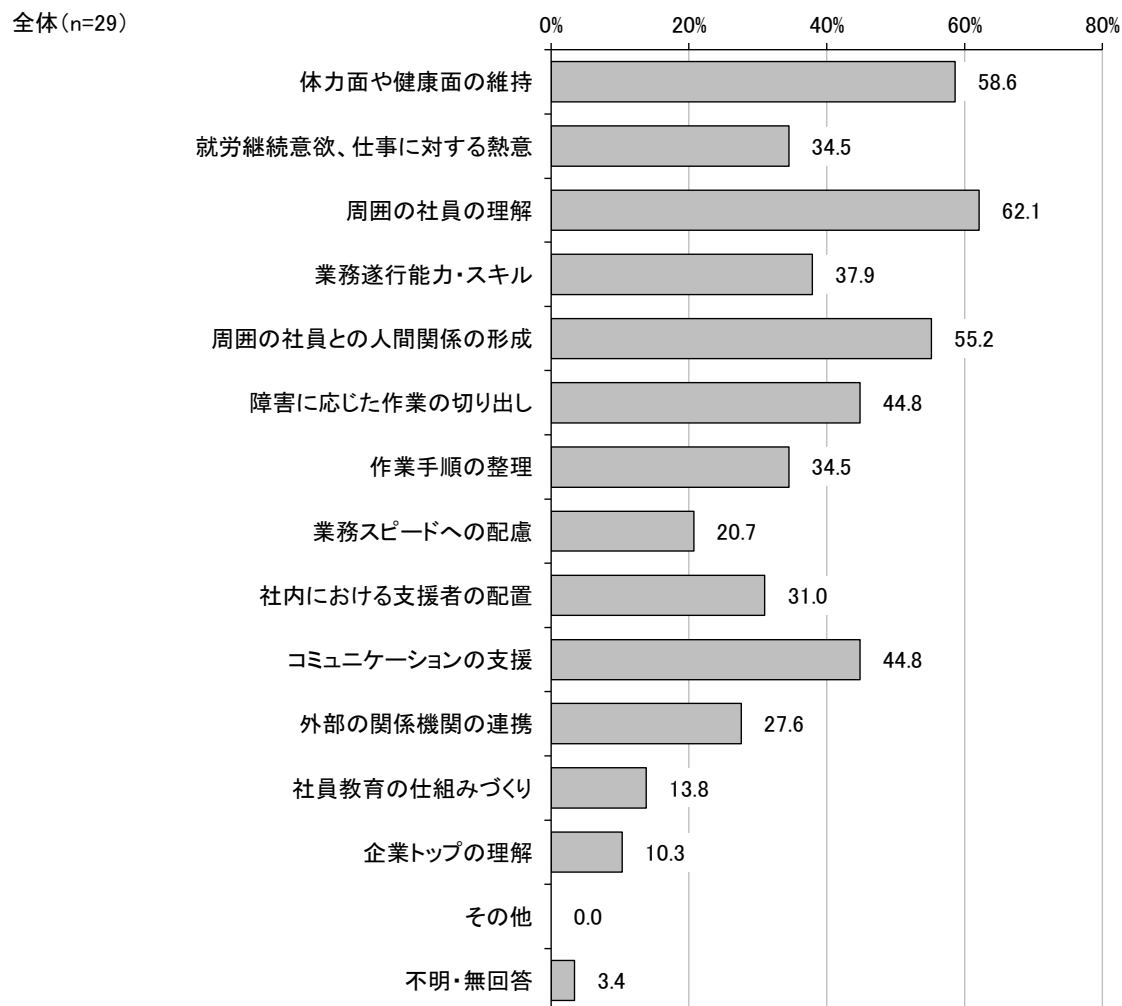
障害者を雇用するにあたってどのようなことを重視するかについてみると、「体力面や健康面の状況」が 62.1%と最も高く、次いで「就労意欲、仕事に対する熱意」「コミュニケーション能力」「障害特性と作業内容のマッチング」が 51.7%、「業務遂行能力・スキル」が 48.3%となっています。



問 19 障害者が長く勤務し続けるためには、どのようなサポートが必要だと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

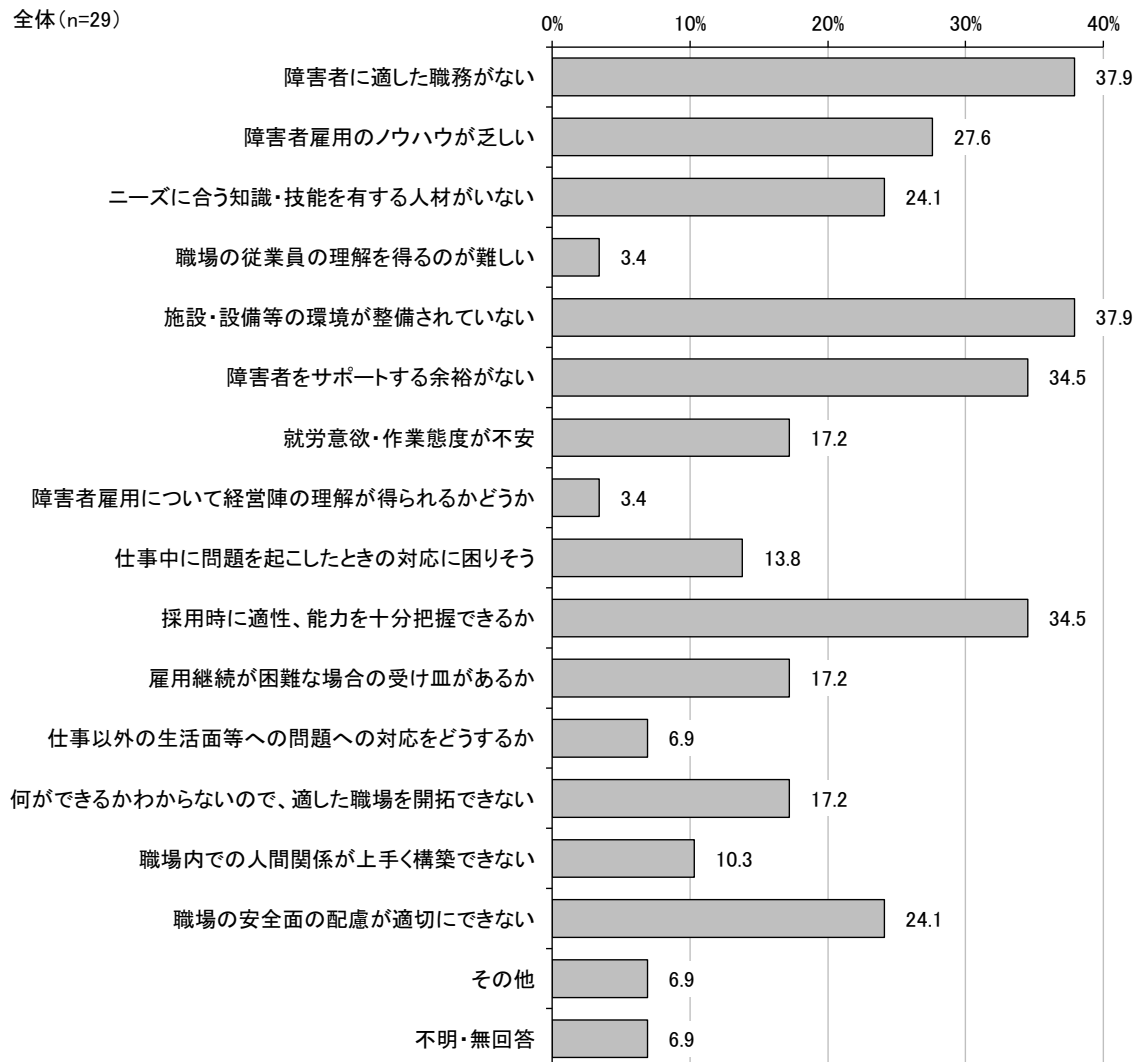
障害者が長く勤務し続けるために必要なサポートについてみると、「周囲の社員の理解」が 62.1%と最も高く、次いで「体力面や健康面の維持」が 58.6%、「周囲の社員との人間関係の形成」が 55.2%となっています。



問 20 障害者を雇用するにあたって、どのような課題や制約がありますか。

(あてはまるものすべてに○)

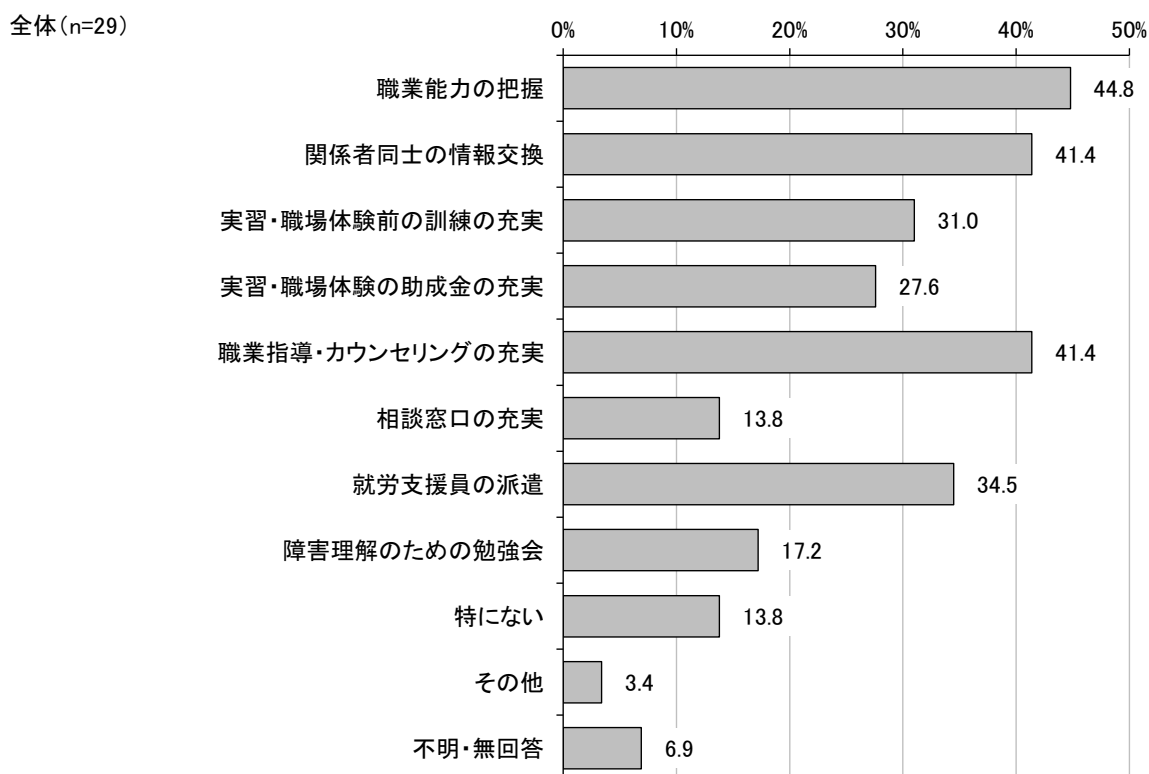
障害者を雇用するにあたっての課題や制約についてみると、「障害者に適した職務がない」「施設・設備等の環境が整備されていない」が 37.9%と最も高く、次いで「障害者をサポートする余裕がない」「採用時に適性、能力を十分把握できるか」が 34.5%、「障害者雇用のノウハウが乏しい」が 27.6%となっています。



20. 障害のある方向けの実習や職場体験について（事業者用）

問 25 実習や職場体験を受け入れるためにどのような支援があれば、受け入れが可能ですか。
（あてはまるものすべてに○）

実習や職場体験の受け入れが可能となる支援についてみると、「職業能力の把握」が 44.8%と最も高く、次いで「関係者同士の情報交換」「職業指導・カウンセリングの充実」が 41.4%、「就労支援員の派遣」が 34.5%となっています。



21. 団体や特定相談支援事業所へのヒアリング結果

■ 特に取り組みが弱いと思われるサービス、今後必要となる・見直すべきサービスはありますか (記述式)

① 障がい児（障害のある子どもの発達支援や障害児通所支援）

・教育課程を終えた障がい児の地域生活へのつながりが不十分

② 障害のある人の就労機会や就労定着

・障害のある人の働ける場所が少ない(農福連携について消極的)
・就労体験できる企業等が少ない
・障害疑い等のきわめて軽度な知的障害などの方への支援

③ 社会参加・体験の機会・場づくり、文化振興

・連携体制の不足(家族への支援が必要なケースが少なからずあるが、相談支援専門員が抱えがちであり、どこに相談して誰と連携したら解決されるのかが分かりにくい)

④ 障害のある人の家族に対する支援

・障害者本人への支援はあっても家族に対する支援が少ない
・相談場所、家族への支援、サービスが増えてほしい
・高齢家族による介助の現状、親亡き後への懸念

⑤ 相談支援体制

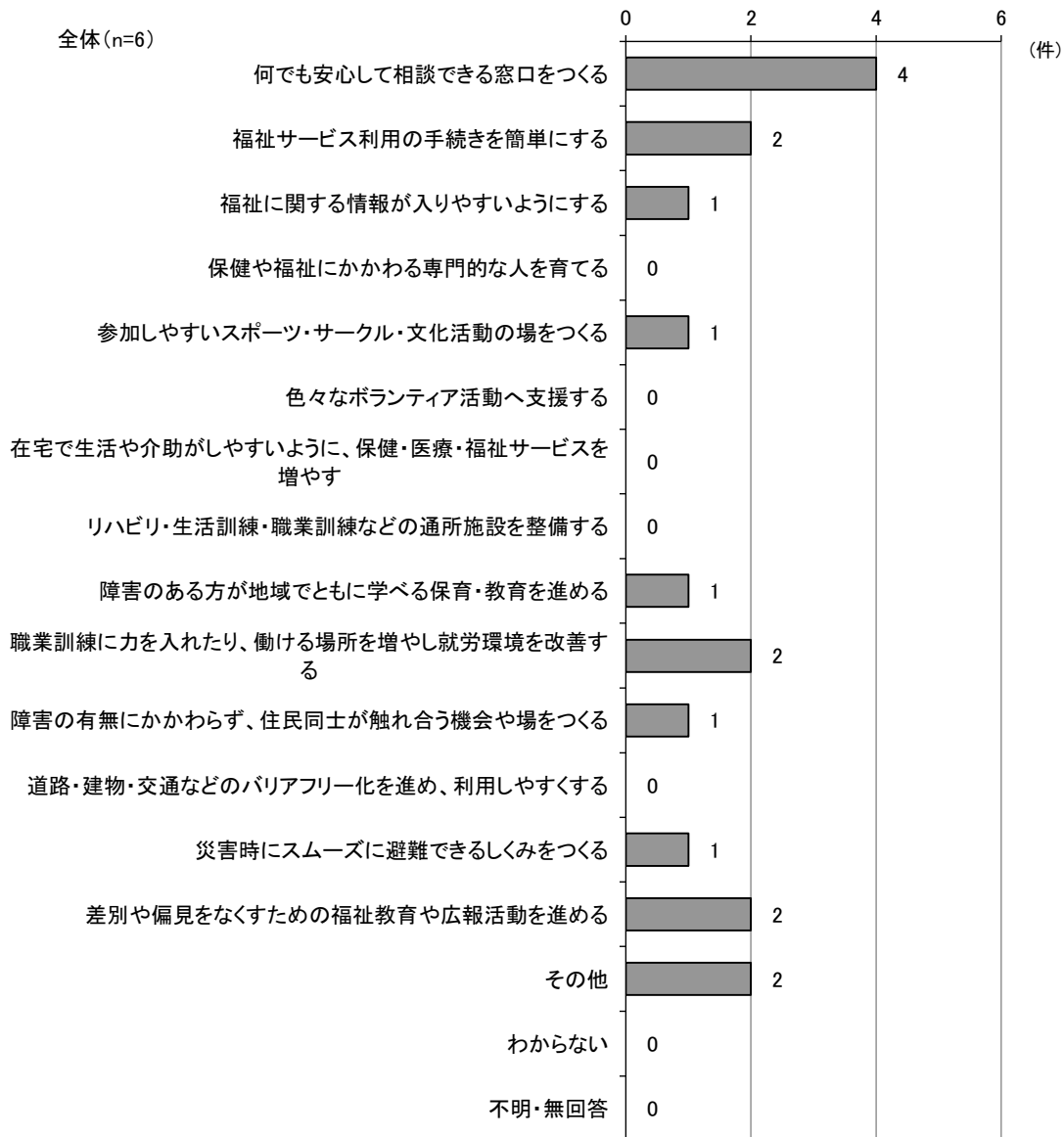
・夜間や休日含む 365 日 24 時間いつでも相談できる所が増えてほしい
・委託相談支援事業所が総合相談窓口としてどのように機能しているのか分からない

⑥ その他

・災害時における支援
・精神障害者のグループホーム等支援が少ない(高齢になっても安心して利用できるグループホームが必要)
・一人暮らし希望者への支援不足(サテライト型グループホームを無期限に)
・ひきこもりはサービスにつながりにくい
・金銭面での支援

2 障がいのある方にとって住みやすいまち（地域共生社会）をつくるために、今後どのようなことが特に重要だと思いますか（〇は3つまで）。

地域共生社会のために、特に何が重要だと思うかについてみると、「何でも安心して相談できる窓口をつくる」が4件と最も高く、次いで「福祉サービス利用の手続きを簡単にする」「職業訓練に力を入れたり、働ける場所を増やし就労環境を改善する」「差別や偏見をなくすための福祉教育や広報活動を進める」が2件となっています。



1 障がいへの理解・啓発について

障がい者の地域生活を支えるためには、さまざまな場面での障がいに対する理解促進が大切です。障がいを理由に差別されたり、いやな思いをした経験があるといった声や、特に就労の場面では、18歳以上の手帳所持者アンケートにおける希望する仕事に就くうえで必要な配慮の上位に「職場内で障がいに対する理解があること」、事業所アンケートにおける障がい者が長く勤務するために必要なサポートの上位に「周囲の社員の理解」となっており、社会的障壁のない地域共生社会の実現に向けて、市民の障がいに対する理解促進は引き続き取り組む必要があります。

2 切れ目のない障がい児支援と家族への支援について

保育・療育から義務教育さらに高校、就職と、障がい児の将来を見据えた切れ目のない支援が求められるとともに、障がい児の将来に対する不安を抱える家族へのケアも必要です。障がい児保護者アンケートにおいて、どのような苦労や悩み、不安があったかについてみると、「障害のことや福祉の制度についての情報が少なかった」「身近に相談できる相手がいなかった」「相談機関がわからなかった」などが上位に挙げられました。増加傾向にある障がい児・グレーゾーンの子どもたちとその家族への支援に引き続き取り組む必要があります。

3 雇用・就労支援について

就労に関しては、「障がいの状況に合わせ、働き方（仕事の内容や勤務時間）が柔軟であること」「職場内で障がいに対する理解があること」「通勤や移動に対して、配慮や支援があること」が障がいのある人が求める必要な配慮の上位となっています。一方で市内事業所が、障がい者を雇用するにあたって抱える課題や制約としては、「障がい者に適した職務がない」「施設・設備等の環境が整備されていない」が上位に挙げられており、設備等のハード面と柔軟な働き方や職場内での理解といったソフト面双方に対する就労支援に取り組む必要があります。

4 社会参加・地域とのつながりについて

障がいのある人の社会参加や就労、地域移行など、住み慣れたまちで自分らしく暮らせる、希望する生活を叶えるためには、周囲の理解や助け合い、つながりづくりが大切です。18歳以上の手帳所持者アンケートにおいて、生きがいをお聞きしたところ「家族のだんらん 家庭のやすらぎ」「楽しめる趣味やスポーツを持っている」「気の合う友達や仲間がいる」が上位に挙げられ、周囲とのつながりを大事にしている人が多くなっています。

一方で、家族が不在などの場合近所に助けてくれる人の有無については、「いない」「わからない」をあわせて6割となっており、緊急時も想定したつながりづくりを行う必要があります。

5 相談支援体制・情報提供体制の整備について

アンケート調査から、相談支援体制の整備に向けては、時間の制限や内容の大小にかかわらず応じる体制と、信頼できる相談者の配置が必要とされています。また、サービスに関する情報を十分に得られていない、少ないといったご意見もありました。国、県でも、情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法の施行などで、アクセシビリティへの対応に取り組む姿勢ですので、本市においても積極的に取り組む必要があります。